

SYLLABUS  
シラバス  
令和7年度

視能訓練士科

医療法人社団 慈恵会

神戸総合医療専門学校

## 令和7年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
医用英語		講義	續 なおみ	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 2 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
医療に関連する専門語彙と英文読解、さらに診療場面での会話体を学習することによって医療英語を修得する。教科書に基づいて授業を行い、毎回授業の終わりに授業内容の要点をプリントで確認する。				
授業の到達目標				
教科書に載っている人体の部位や疾患に関する医療英語が理解できる。 診療場面の英会話を理解し、応用できる。				
授業計画				
回	内容			
1	Chapter 5 Body Parts External Body Parts 身体の外側 / Musculoskeletal System 筋骨格系			
2	Chapter 5 Body Parts Blood & Immune System 血液・免疫系 / Respiratory System 呼吸器系			
3	Chapter 5 Body Parts Digestive System 消化器系 / Urinary System 泌尿器系			
4	Chapter 5 Body Parts Endocrine System 内分泌系 / Reproductive System (Genital System) 生殖器系			
5	Chapter 5 Body Parts Nervous System 神経系 / Sensory Organs 感覚器官 (visual organ 視覚器官)			
6	Chapter 5 Body Parts Sensory Organs 感覚器官 (auditory organ 聴覚器官) / Skin 皮膚 / Miscellaneous その他			
7	Chapter 9 Expressions to Describe Signs and Symptoms (Reading / Word check)			
8	Chapter 9 Expressions to Describe Signs and Symptoms (Word Study)			
9	Chapter 9 Expressions to Describe Signs and Symptoms (冠詞の用法 / bring on ... / Exercise)			
10	Chapter 10 Expressions to Describe Vital Signs (Reading / Word check)			
11	Chapter 10 Expressions to Describe Vital Signs (Word Study / Exercise)			
12	Chapter 11 Expressions to Describe Pains (Reading / Word check)			
13	Chapter 11 Expressions to Describe Pains (Word Study / Exercise)			
14	Chapter 12 Expressions to Use in the Examination (Reading / Word check)			
15	Chapter 12 Expressions to Use in the Examination (Word Study) / 復習			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
講義録 医学英語I 語彙の充実と読解力の向上	日本医学英語教育学会 編		メジカルビュー社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
基礎医学 I		講義	宮崎 茂雄	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 2 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>種々の臨床課題に取り組んでいくためには、医療・医学への深い洞察のもと、人体の構造と機能の系統的な知識に基づき、生命現象を総合的に理解できる能力が必要になります。この能力獲得のために、【基礎医学 I】では、第 1 部として医療、医学の歴史的背景、現代的課題を理解します。続いて第 2 部では人体における生命現象を解剖学、生理学的視点から学びます。</p>				
授業の到達目標				
<p>①医療・医学の歴史的背景、現代的課題が説明できる                  ②人体の肉眼的解剖の概略が説明できる                  ③人体でみられる生理学的機能の概略が説明できる</p>				
授業計画				
回	内容			
1	第 1 部	医療、医学の目指してきたもの	1	医療と医学
2		〃	2	健康への願い
3		〃	3	医療の変遷 (1) 西洋医学の変遷
4		〃		(2) 日本での変遷、統合医療
5		〃		(3) 現代医療の課題
6	第 2 部	肉眼的観察による人体の構造と機能	1	人体の基本
7		〃	2	骨格・運動器系
8		〃	3	神経系 (1) 中枢神経系の構造
9		〃		(2) 中枢神経系の機能
10		〃		(3) 脳神経と末梢神経系
11		〃	4	感覚系
12		〃	5	循環器系、免疫系
13		〃	6	呼吸器系、消化器系
14		〃	7	内分泌系、泌尿器系、生殖器系
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	定期試験のみで評価します。		
レポート・課題				
小テスト		理解度のセルフチェックのための小テストを講義ごとに実施します。		
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載	講義内容に沿ったプリント資料を配布します。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
からだが見える 人体の構造と機能 第1版	医療情報科学研究所 編		メディックメディア	
看護学入門1 人体のしくみと働き 第5版	橋本尚詞 編		メヂカルフレンド社	
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
基礎医学Ⅱ		講義	宮崎 茂雄	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>種々の臨床課題に取り組んでいくためには、生命現象を総合的に理解する能力が必須になります。  <b>【基礎医学Ⅱ】</b>では、人体を細胞レベルで考える組織学的視点を出発点として、遺伝子レベルまで視野を広げ、生化学、免疫学、発生の学的視点や病理学的視点から、視機能に関連する事項に言及しつつ、総合的に人間における生命現象を学んでいきます。</p>				
授業の到達目標				
<p>① 一般的な細胞の構造をもとにして、特別な機能を持つようになった細胞の構造と機能が説明できる                  ② 各種臨床検査の意義とその基準値が説明できる                  ③ 人体の発生、成長、老化の過程が説明できる                  ④ 人体の構造と機能の障害をきたす各種の疾病の概略が説明できる</p>				
授業計画				
回	内容			
1	第3部 顕微鏡的観察による人体の構造と機能	1	細胞、組織、器官	
2	〃	2	上皮組織（1）	
3	〃	3	上皮組織（2）	
4	〃	4	非上皮組織（1）	
5	〃	5	非上皮組織（2）	
6	第4部 各種検査から見える人体の構造と機能	1	バイタルサイン	
7	〃	2	血液生化学検査	
8	〃	3	免疫学的検査	
9	〃	4	遺伝子検査	
10	〃	5	画像診断	
11	第5部 人体の発生、成長と老化	1	発生と老化・死	
12	〃	2	移植医療	
13	第6部 人体の構造と機能の異常	1	炎症、感染症	
14	〃	2	細胞障害	
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	定期試験のみで評価します		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載	理解度のセルフチェックのための小テストを講義ごとに実施します			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載	講義内容に沿ったプリント資料を配布します			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
からだが見える 人体の構造と機能 第1版	医療情報科学研究所 編		メディックメディア	
視能学 第3版	小林義治 他編		文光堂	
自由記載				
備考				

## 令和7年度シラバス

## 視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
基礎視能矯正学Ⅱ		講義	山寄 統子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
本科目では斜視・弱視を評価する上で重要な検査である視能検査の目的と方法及び評価などについて基本的知識を理解することを目的とする。				
授業の到達目標				
①各視能検査の目的と方法を説明することができる。 ②検査結果から固視・眼位・両眼視の状態を評価できる。				
授業計画				
回	内容			
1	固視検査（検査の目的、角膜反射による固視検査、両眼性固視検査）			
2	固視検査（直像鏡による固視検査、その他の固視検査）			
3	単眼性眼位検査（検査の目的、各検査の手順）			
4	単眼性眼位検査（各検査の手順・結果の評価）			
5	両眼性眼位検査（角膜反射による方法）			
6	両眼性眼位検査（遮閉試験）			
7	両眼性眼位検査（プリズム遮閉試験）			
8	両眼性眼位検査（Maddox杆を用いる方法）			
9	両眼性眼位検査（回旋偏位の測定方法）			
10	大型弱視鏡検査（測定原理、検査の目的、他覚的斜視角検査）			
11	大型弱視鏡検査（自覚的斜視角検査、網膜対応検査）			
12	大型弱視鏡検査（融像検査、立体視検査）			
13	まとめ（固視検査・単眼性眼位検査）			
14	まとめ（両眼性眼位検査）			
15	まとめ（大型弱視鏡検査）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	定期試験で評価する。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 監修	文光堂		
視能学エキスパート 視能訓練学 第2版	若山曉美 他編	医学書院		
視能矯正学 改訂第3版	丸尾敏夫 編	金原出版		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
幾何光学		講義	荒木 渚	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
眼科で取り扱う検査機器には多くのレンズが使用されています。この授業では、光学の基礎を修得するために「光の性質と特徴」と「レンズの作用」を理解することを目的とします。				
授業の到達目標				
①光の性質を説明できる。②レンズの構造や結像を図示することができる。③レンズ屈折力の計算ができる。④プリズムの計算ができる。⑤眼球の光学的特性を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	光の性質			
2	光の単位、屈折率			
3	屈折の法則			
4	臨界角と全反射			
5	確認テスト			
6	レンズの種類、レンズの主要点			
7	レンズの屈折力			
8	レンズによる結像			
9	Vergence、レンズの倍率			
10	プリズム① 偏向角の計算			
11	プリズム② プリズム合成			
12	プリズム③ Prenticeの法則			
13	鏡、収差、フィルター			
14	模型眼、眼の軸と角度			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト		習熟度の確認のため随時小テストを実施するが、評価には含まない。		
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
視能学 第3版	小林義治 他編		文光堂	
視能学エキスパート 光学・眼鏡 第2版	松本富美子 他編		医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
屈折異常とその矯正 改訂第7版	所敬 著		金原出版	
視能学エキスパート 視能検査学 第2版	和田直子 他編		医学書院	
自由記載				
備考				
定規を持参してください。				

# 令和7年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視覚情報処理学		講義	谷口 誠典・菊地 雅史	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 2 単位)		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
視覚情報処理過程を系統的に学ぶ。				
授業の到達目標				
①神経系の構造と機能を理解する。 ②視覚路、対光反射の経路を理解する。 ③視覚情報処理（統合系）の基礎を習得する。				
授業計画				
回	内容			
1	神経の構造と機能（中枢神経系と末梢神経系）			
2	脳葉・脳溝・脳回、大脳の機能局在			
3	神経細胞（ニューロン）			
4	活動電位（脱分極）			
5	伝導と伝達			
6	統合系 視覚路（初期視覚路、並列情報処理、眼優位性コラム、高次視覚野における情報処理）			
7	" 単眼奥行き手がかり、両眼奥行き手がかり			
8	" 両眼視差、両眼加算、両眼視野闘争両眼視細胞と受容野			
9	対光反射			
10	出力系 眼球運動神経と外眼筋			
11	" 眼球運動神経の解剖生理			
12	" 固視微動、外眼筋の位置覚と自己受容器			
13	眼球運動系視覚情報処理①（菊地Dr.）			
14	眼球運動系視覚情報処理②（菊地Dr.）			
15	まとめプリント			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
視能学 第3版	小林義治 他編		文光堂	
視能学エキスパート 視能訓練学 第2版	若山曉美 他編		医学書院	
視能学エキスパート 視能検査学 第2版	和田直子 他編		医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視覚生理学 I		講義・演習	山寄 統子	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
眼科検査の中で、視野検査は他の診療科との連携の上でも重要な検査です。信頼できる検査結果を求めるために、正確な知識と手技が必要です。本講義では、視野検査に関わる基本的知識・視野異常について理解をし、基本的な検査方法を習得することを目的とします。				
授業の到達目標				
①視野検査に関わる基本的な知識を説明することができる。 ②視野異常について説明することができる。 ③正常視野に対する各視野検査を正確に実施することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	ガイダンス 視野とは 視野を理解するための解剖			
2	視野検査を理解するための視覚生理学			
3	動的視野検査①			
4	動的視野検査②(実習室)			
5	動的視野検査③(実習室)			
6	視野測定演習①(実習室)			
7	視野測定演習②(実習室)			
8	視野測定演習③(実習室)			
9	視野測定演習④(実習室)			
10	視野測定演習⑤(実習室)			
11	視野測定演習⑥(実習室)			
12	その他の視野検査			
13	静的視野検査①			
14	静的視野検査②(実習室)			
15	視覚生理学 I まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%			
レポート・課題	20%	課題に対し適切にレポートを作成できているかを評価する。		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 監修	文光堂		
視能学エキスパート 視能検査学 第2版	和田直子 他編	医学書院		
理解を深めよう 視野検査 第1版補訂版	松本長太 監修	金原出版		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

## 視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視覚生理学Ⅱ		講義・演習	荻野 綾・宮崎 茂雄	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
視覚系は眼の光学系、視覚伝導系、眼の運動系からなる情報処理機構であり、脳により統合処理されている。本講義では視覚系の基礎的知識（光覚・色覚）を習得し、視覚に関わる信号処理のメカニズムについて理解することを目的とする。				
授業の到達目標				
視覚の仕組みと視機能・視知覚との関連を考えることが出来る。 適切な検査手技により、検査結果を導くことが出来る。 検査結果から適切な評価が出来る。				
授業計画				
回	内容			
1	視覚あれこれ（1）視覚生理学・視覚心理学（担当：宮崎茂雄）			
2	視覚あれこれ（2）視覚認知学（担当： 〃 ）			
3	視覚あれこれ（3）色彩の心理と認知（担当： 〃 ）			
4	網膜の光化学（担当：荻野綾）			
5	色についての基本的知識（担当： 〃 ）			
6	先天色覚異常（1）種類（担当： 〃 ）			
7	先天色覚異常（2）遺伝（担当： 〃 ）			
8	後天色覚異常（担当： 〃 ）			
9	色覚検査（1）仮性同色表（担当： 〃 ）			
10	色覚検査（2）色相配列検査（担当： 〃 ）			
11	色覚検査（3）アノマロスコープ（担当： 〃 ）			
12	色覚検査【演習】（担当： 〃 ）			
13	色覚検査【演習】（担当： 〃 ）			
14	光覚検査（担当： 〃 ）			
15	光覚検査【演習】（担当： 〃 ）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 監修	文光堂		
視能学エキスパート 視能検査学 第2版	和田直子 他編	医学書院		
病気がみえる vol.12 眼科	医療情報科学研究所 編	メディックメディア		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

## 視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視器の解剖生理 I		講義・演習	宮崎 茂雄・山本 雅美・荻野 綾	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 2 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>「よく見えている」ために必要な視器（眼球とその付属器）の正常構造と生理機能が説明できることを目的とします。これらの知識は視能訓練士として施行する眼科検査の意義や、各種の眼疾患の病態を理解するために必須のものになります。【視器の解剖生理 I】では眼球自体の解剖と生理を多数のイラストの入ったオリジナル資料で理解していきます。さらに、演習では教科書などを参考にして知識を深め、確実なものにしていきます。</p>				
授業の到達目標				
<p>①視器全体の構造を明確に図示できる。                  ②眼球各部の構造と機能が説明できる。                  ③成人眼球での標準的な数値（眼軸長、屈折力など）が説明できる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	視覚と視覚器の概略	(宮崎)		
2	視覚と視覚器の概略	演習	(山本)	
3	眼球外膜：角膜・強膜	(宮崎)		
4	眼球外膜：角膜・強膜	演習	(山本)	
5	眼球中膜：ぶどう膜 (1)	虹彩・毛様体	(宮崎)	
6	眼球中膜：ぶどう膜 (1)	虹彩・毛様体	演習	(山本)
7	眼球中膜：ぶどう膜 (2)	脈絡膜・隅角	(宮崎)	
8	眼球中膜：ぶどう膜 (2)	脈絡膜・隅角	演習	(山本)
9	眼球内膜：網膜 (1)	10層構造と中心窩	(宮崎)	
10	眼球内膜：網膜 (1)	10層構造と中心窩	演習	(山本)
11	眼球内膜：網膜 (2)	網膜の構成細胞	(宮崎)	
12	眼球内膜：網膜 (2)	網膜の構成細胞	演習	(山本)
13	眼球内容物：水晶体・毛様小帯・硝子体	(宮崎)		
14	眼球内容物：水晶体・毛様小帯・硝子体	演習	(山本)	
15	総括：関連する国試既出問題	(宮崎)		
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	定期試験のみで評価します。		
レポート・課題				
小テスト		理解度のセルフチェックのために小テストを講義ごとに実施します。		
平常点				
その他				
自由記載	講義内容に沿ったプリント資料を配布します。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
視能学 第3版	小林義治 他編		文光堂	
病気がみえる vol.12 眼科	医療情報科学研究所 編		メディックメディア	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視器の解剖生理Ⅱ		講義・演習	宮崎 茂雄・山本 雅美・荻野 綾	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>「よく見えている」ために必要な視覚系の正常構造と生理機能が説明できることを目的としています。これらの知識は視能訓練士として施行する眼科検査の意義や、各種の眼疾患の病態を理解するために必須のものです。  <b>【視器の解剖生理Ⅱ】</b>では眼球付属器、脳内での視覚伝導路と眼球運動制御機構、視器の発生と加齢変化をオリジナル資料によって把握し、教科書などを用いる演習で確実な知識に深めていきます。</p>				
授業の到達目標				
<p>①眼球付属器の構造と機能が説明できる。                  ②脳内での視覚伝導路が説明できる。                  ③眼球運動制御機構が説明できる。                  ④眼球の発生と加齢変化が説明できる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	眼球付属器：眼瞼・結膜・涙器	(宮崎)		
2	眼球付属器：眼瞼・結膜・涙器	演習	(山本)	
3	眼球付属器：眼窩・外眼筋 (1)	(宮崎)		
4	眼球付属器：眼窩・外眼筋 (1)	演習	(山本)	
5	眼球付属器：外眼筋 (2)	(宮崎)		
6	眼球付属器：外眼筋 (2)	演習	(山本)	
7	眼と脳	： 視覚伝導路	(宮崎)	
8	眼と脳	： 視覚伝導路	演習	(山本)
9	眼と脳	： 眼球運動制御機構	(宮崎)	
10	眼と脳	： 眼球運動制御機構	演習	(山本)
11	眼球の発生と加齢変化	(宮崎)		
12	眼球の発生と加齢変化	演習	(山本)	
13	総括 (1)	： 関連する国試既出問題	(宮崎)	
14	総括 (2)	： 視器の解剖生理Ⅰまとめ	(山本)	
15	総括 (3)	： 視器の解剖生理Ⅱまとめ	(山本)	
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	定期試験のみで評価します。		
レポート・課題				
小テスト		理解度のセルフチェックのために小テストを講義ごとに実施します。		
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
視能学 第3版	小林義治 他編		文光堂	
病気がみえる vol.12 眼科	医療情報科学研究所 編		メディックメディア	
自由記載	講義内容に沿ったプリント資料を配布します。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
視能学概論		講義・演習	山本 雅美・山寄 統子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>視能矯正の枠組みを理解し、3年間の視能訓練士科での学びに向けてレディネスを整えることを目的とする。視能訓練士・視能矯正の枠組みを理解できるよう、理念や歴史、倫理などといった項目に分けて講義を進めます。さらに、目指すべき視能訓練士像を描き、主体性を高め、自ら学ぶ力を身につけることを目的としています。</p>				
授業の到達目標				
<p>①視能矯正の枠組みを理解する。          ②医療社会における視能訓練士の役割を理解し、自分の目指すべき視能訓練士をイメージできる。          ③イメージした将来の視能訓練士像を表現し、その実現のために学生生活での目標を組み立てることができる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	ガイダンス・視能矯正の理念			
2	視能矯正の歴史			
3	視能矯正の展開 ①業務の管理と運営			
4	視能矯正の展開 ②EBMとNBMによる視能矯正			
5	視能訓練士の倫理			
6	視能訓練士の教育・視能訓練士の資質と適性			
7	グループワーク「目指すべき視能訓練士になるために」			
8	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%	講義内容の理解度を評価する。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	20%	グループワークの積極的な取り組み及びワークに関連する提出物をもとに評価する。評価基準は別途示す。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
視能学 第3版	小林義治 他編		文光堂	
視能学エキスパート 視能訓練学 第2版	若山暁美 他編		医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

## 視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視能矯正学演習 I		演習	山寄 統子・山本 雅美	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
本演習では斜視検査の基礎と応用について学びます。基礎的知識を固めながら、実際に検査ができるようになること、得られた検査結果を評価し考察する力を身につけることを目的としています。				
授業の到達目標				
①各視能検査の目的、方法、結果の解釈について理解する。 ②正しい検査手順で行い、カルテ記載ができる。 ③各検査の違いを理解し、結果を評価することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	固視検査・眼位検査① (実習室)		授業開始時期：基礎視能矯正学Ⅱ第9回終了後	
2	固視検査・眼位検査② (実習室)			
3	固視検査・眼位検査③ (実習室)			
4	固視検査・眼位検査④ (実習室)			
5	固視検査・眼位検査⑤ (実習室)			
6	眼位検査・大型弱視鏡検査① (実習室)		授業開始時期：基礎視能矯正学Ⅱ第12回終了後	
7	眼位検査・大型弱視鏡検査② (実習室)			
8	眼位検査・大型弱視鏡検査③ (実習室)			
9	眼位検査・大型弱視鏡検査④ (実習室)			
10	眼位検査・大型弱視鏡検査⑤ (実習室)			
11	課題研究 (実習室)			
12	課題研究 (実習室)			
13	課題研究 (実習室)			
14	課題研究 (実習室)			
15	まとめ (実習室)			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	30%	毎回の授業で取り組む課題について、理解力、考察力、表現力を評価する。		
小テスト				
平常点				
その他	70%	実技試験により習熟度を評価する。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
視能学 第3版	小林義治 他編		文光堂	
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 監修		文光堂	
視能学エキスパート 視能訓練学 第2版	若山暁美 他編		医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

## 視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視能訓練学Ⅰ（斜視）		講義	荒木 渚	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
本講義では斜視の定義、病因論および分類、臨床特徴について学習する。				
授業の到達目標				
①斜視の各型について臨床特徴を理解する。 ②診断に必要な検査を選択でき、また得られる結果を予想できる。 ③斜視の各型について治療方法を述べるができる。				
授業計画				
回	内容			
1	斜視の病因論			
2	斜視の分類			
3	先天内斜視 授業開始時期：基礎視能矯正学Ⅱ第7回終了後			
4	後天内斜視			
5	調節性内斜視（1）			
6	調節性内斜視（2）			
7	間欠性外斜視（1） 授業開始時期：基礎視能矯正学Ⅱ第12回終了後			
8	間欠性外斜視（2）			
9	恒常性外斜視・続発外斜視			
10	内斜視・外斜視のまとめ			
11	交代性上斜位			
12	上下斜視・回旋斜視			
13	A-V型斜視			
14	微小斜視			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
視能矯正学 改訂第3版	丸尾敏夫 編	金原出版		
視能学エキスパート 視能訓練学 第2版	若山曉美 他編	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視能検査学 I		講義・演習	荻野 綾・荒木 渚	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
視器の各部位の検査を学ぶ。				
授業の到達目標				
①視器の正常構造と生理機能を理解した上で各種眼科検査機器での検査意義が説明できる。 ②正常者の検査が正しく行える。 ③患者に対し、分かりやすい検査説明ができる。 ④授業範囲に関連する国家試験の問題を解くことができる。				
授業計画				
回	内容			
1	角膜検査 角膜曲率半径			
2	角膜検査 角膜形状解析装置			
3	角膜検査 角膜知覚・角膜厚検査			
4	角膜検査 角膜内皮細胞検査			
5	角膜検査①【演習】			
6	角膜検査②【演習】			
7	眼球突出検査			
8	眼圧検査①			
9	眼圧検査②			
10	眼球突出検査／眼圧検査①【演習】			
11	眼球突出検査／眼圧検査②【演習】			
12	涙液検査①			
13	涙液検査②			
14	涙液検査【演習】			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	70%			
レポート・課題	30%	演習レポートにより理解度と表現力を評価する。		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 監修	文光堂		
視能学エキスパート 視能検査学 第2版	和田直子 他編	医学書院		
病気がみえる vol.12 眼科	医療情報科学研究所 編	メディックメディア		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視能検査学総論		講義・演習	山本 雅美・荻野 綾	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 2 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
視能訓練士は、数多くの検査機器を用いて眼科検査を行います。本講義では、検査機器の取り扱いに関する概要、検査実施時の心得について説明し、検査機器の基本的操作の体得および、患者の気持ちや身体の状態に配慮しながら安全を意識した検査が行えるようになることを目的とする。さらに、視能検査学の学びに欠かせないレポートについて基本的な書き方を習得する。				
授業の到達目標				
①検査機器の基本的知識を説明することができる。 ②患者の心理面、身体面、安全面に配慮した検査と基本的機器操作を実施することができる。 ③レポートの書き方を理解し、課題に対して適切にレポートで表現することができる。 ④瞳孔間距離計測検査を正しくを測定することができる。				
授業計画				
回 内容				
1	ガイダンス（視能検査学とは） 眼科検査の経験を振り返る			
2	視能検査機器の基本的知識・安全管理・メンテナンス			
3	視能検査の基本①（実習室）			
4	視能検査の基本②（実習室）			
5	視能検査の基本③（実習室）			
6	レポートの書き方について①（レポート課題①）			
7	レポートの書き方について②			
8	レポートの書き方について③			
9	患者・医療者の心理を考える①（レポート課題②）			
10	患者・医療者の心理を考える②（レポート課題③）			
11	瞳孔間距離計測検査①（基本編）			
12	瞳孔間距離計測検査②（応用編）（レポート課題④）			
13	課題研究			
14	課題研究			
15	視能検査学総論の学びを振り返る			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%			
レポート・課題	20%	課題に対し適切にレポート作成ができているかを評価する。（評価項目は別途示す。）		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 監修	文光堂		
視能学エキスパート 視能検査学 第2版	和田直子 他編	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

## 視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視能障害学 I		講義	宮崎 茂雄	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
【視器の解剖生理 I、II】の知識を基にして、主要な外眼部・前眼部疾患、白内障、および中途失明に結びつく緑内障での自覚症状、他覚所見、各種の検査結果が生じてくる機序が説明できることを目的としています。【視能障害学 I】で取り上げられる主要疾患の病態の理解は、視能訓練士としてレベルの高い業務遂行のための必須の知識になっていきます。				
授業の到達目標				
①外眼部・前眼部疾患、白内障および緑内障の病態が説明できる。 ②視能訓練士の行う各種の検査結果が、各疾患の診断と治療評価にどのように役立てられるのかが説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	眼症状	視力低下、視野欠損、眼痛		
2	眼科診療の手順	医療面接、眼科検査		
3	眼瞼疾患	眼瞼下垂、麦粒腫、霰粒腫		
4	涙器疾患	涙液分泌減少症・眼乾燥症		
5	結膜疾患	結膜炎		
6	角膜・強膜疾患(1)	角膜炎、角膜潰瘍		
7	〃 (2)	円錐角膜、角膜の手術、強膜炎		
8	水晶体疾患(1)	白内障、水晶体位置異常		
9	〃 (2)	白内障手術 — 術前検査		
10	〃 (3)	白内障手術 — 手術手技、合併症		
11	緑内障(1)	定義、特徴的な眼底変化		
12	〃 (2)	特徴的な視野障害、その他の検査所見		
13	〃 (3)	病型分類		
14	〃 (4)	治療方針		
15	総括	関連する国試既出問題		
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	定期試験のみで評価します。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載	理解度のセルフチェックのために小テストを講義ごとに実施します。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
病気がみえる vol.12 眼科	医療情報科学研究所 編		メディックメディア	
視能学 第3版	小林義治 他編		文光堂	
自由記載	講義内容に沿ったプリント資料を配布します。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
イラスト眼科 第8版	渡邊郁緒・新美勝彦 著		文光堂	
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

## 視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
社会福祉学		講義	棚野 恭範	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 2 単位)		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>1. 実践現場 (医療・福祉等) における視能訓練士の役割りとして、個別援助サービスを展開する場合、対象者の抱える多様な福祉課題を認識し、対象者を人間としてのトータルな視点を有することが必要である。2. 社会福祉は、生活上の福祉課題を明らかにし、リハビリテーション・ノーマライゼーションの理念のもと、人間が人間として相応し生活を営む権利を保障していくことである。これは老若男女を問わず人間一人ひとりが当事者性を認識することが肝要である。以上を受けて、障害者・高齢者福祉他を中心に基本的な社会福祉の視点を始め、概論・各論について現況・課題、制度とサービスについて事例を多く紹介し、実践学として社会福祉を身近なものとし、又自分自身の問題とするための内容としたい。</p>				
授業の到達目標				
<p>社会福祉で習得する知識をロービジョン学に発展させる。 障害者・児童・高齢者などの支援に関係する社会福祉の法律や制度について理解をする。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	総論Ⅰ 社会福祉学を学ぶ意味、社会福祉の歩み			
2	総論Ⅱ 社会福祉関連法と施設・機関・福祉専門職・キーワード			
3	地域福祉Ⅰ 地域を取りまく課題、地域福祉とは			
4	地域福祉Ⅱ ボランティア活動、阪神淡路大震災と災害ボランティア			
5	グループワークⅠ 社会福祉を考える			
6	社会保障制度Ⅰ 社会保障制度の現状と課題、生活困窮			
7	社会保障制度Ⅱ 生活保護制度、課題解決と法律・制度			
8	子ども家庭福祉Ⅰ 子ども家庭福祉、課題解決と法律・制度・社会資源			
9	子ども家庭福祉Ⅱ 子どもを取りまく現状と課題、ヤングケアラーとは			
10	障がい者福祉Ⅰ 障がい者福祉、課題解決と法律・制度・社会資源			
11	障がい者福祉Ⅱ 障がい者を取りまく現状と課題			
12	高齢者福祉Ⅰ 高齢社会の現状と課題			
13	高齢者福祉Ⅱ 要援護高齢者と介護問題、地域包括ケアシステム、介護保険制度			
14	グループワークⅡ 福祉課題の検討			
15	社会福祉学まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	社会福祉全般にわたる理解内容を評価基準とする		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
よくわかる社会福祉 第11版	山縣文治・岡田忠克 編		ミネルヴァ書房	
自由記載	レジメ・講義 (参考) 資料を配付する			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
特に指定しない				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
情報科学		講義・演習	田中 靖人	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>我々は医療専門職者として、患者の個人情報の取り扱いや電子カルテの操作など、情報を法の下で取り扱ったり管理する立場となる。</p> <p>本講座では、情報社会における様々な問題点を理解することで安全な情報管理が行えること、またワープロ・表計算・プレゼンテーションソフトに触れながら、パソコンスキルの向上を目指すことを目的とする。</p>				
授業の到達目標				
<p>①情報社会における倫理を理解し、日常的な実践に繋げる。</p> <p>②情報に関する法と責任を理解する。</p> <p>③情報セキュリティを理解し、日常的な実践に繋げる。</p> <p>④各種ソフトを用い、基本的なレポート作成やデータの集計、プレゼン資料作成ができるようになる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	医療関係者と個人情報			
2	ネットにおけるマナー			
3	【パソコンスキルの修得（Word 1）】操作方法を学ぶ・課題書類の作成			
4	【パソコンスキルの修得（Word 2）】操作方法を学ぶ・課題書類の作成			
5	【パソコンスキルの修得（Excel 1）】操作方法を学ぶ・課題書類の作成			
6	【パソコンスキルの修得（Excel 2）】操作方法を学ぶ・課題書類の作成			
7	【パソコンスキルの修得（Power Point 1）】操作方法を学ぶ・課題（プレゼンテーション）の作成			
8	【パソコンスキルの修得（Power Point 2）】操作方法を学ぶ・課題（プレゼンテーション）の作成			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	100%	パソコンに関する課題、テーマに応じたレポート等 提出物の出来具合で評価する		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載	講義時に資料を適宜配布します。			
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				
授業の進捗状況によって変更が生じる場合があります。パソコンで作成したデータを保存できるように、USBメモリーを各自用意してください。				

# 令和7年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
心理学		講義	尾崎 勝彦	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 2 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
心理学を身近なものとして感じ、それを自身の人生に活かしていくことを目的とする。 形ないものに興味や疑問を持ち、生きることは何かを考える機会となるような話題提供を予定している。				
授業の到達目標				
①心理学の概念や用語の意味を理解する。 ②この知識を使用して生活場面における人と心と行動について考察ができる。				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション；「心」とは？ 「心・こころ・ココロ」のイメージ 心理学の立場・考え方・研究方法			
2	知覚と感覚；知覚の成立、体制化、諸相、錯視			
3	記憶；記憶の機能と種類、記憶テスト			
4	学習1；レスポンド条件付け、オペラント条件付け			
5	学習2；その他の学習			
6	知能；知能の定義、知能テスト			
7	パーソナリティ；パーソナリティの捉え方、パーソナリティの測定			
8	心理療法とカウンセリング1；心理カウンセリングの特徴と原理、グループワークとペアワーク(レポート)			
9	心理療法とカウンセリング2；種々のカウンセリング			
10	心理療法とカウンセリング3；森林療法の実験			
11	感情1；感情とフラストレーション、防衛機制			
12	感情2；ストレスとその対処(レポート)			
13	対人認知1；個人と集団の関係			
14	対人認知2；対人魅力			
15	全体のまとめと補足			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	70%	基礎的な理解ができているか。		
レポート・課題	30%	書式に従っているか、内容は妥当か。		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
使用しない。ほぼ毎回プリントを配布する。				
自由記載	プリントの整理をきちんとしておくこと。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
心理学	全国歯科衛生士教育協議会 監修		医歯薬出版株式会社	
よくわかる臨床心理学 第2版	山口創 著		川島書店	
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
人間関係論		講義・演習	木村 和弘	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
医療従事者は、様々な背景をもつ他者と関わり、人間関係を適切に構築する必要があります。そのために、まずは自分のことを良く知る必要があります（自分の価値観、コミュニケーションの傾向等）。そして、人の多様性を理解し、思いやりの心や他者を尊重する気持ちを持ってコミュニケーションを行うことが重要です。本科目では、コミュニケーションに関する基本的知識と態度を身につけ、協力的に人と関わる体験を通してコミュニケーションの意義と重要性を学ぶことを目的とします。ますます重要となる多職種連携のためのコミュニケーションも学びます。				
授業の到達目標				
①コミュニケーションの意義と重要性を説明できる。                      ②コミュニケーションの方法と技能を説明できる。 ③相手に関心をもって人の話を聞くことができる。                      ④話し手聞き手の役割りに基づいて適切なコミュニケーションスキルが活用できる。 ⑤コミュニケーションにより良好な人間関係を築き、このスキルを活用しチームの一員として責任を果たせる。				
授業計画				
回	内容			
1	コミュニケーションの基本      ～良いコミュニケーションとは？専門職のコミュニケーションとは？～			
2	良いコミュニケーションのための人間行動理解      その① 人間関係の形成を考える      ～愛着理論・他～			
3	良いコミュニケーションのための人間行動理解      その② 人間関係のための自己理解      ～自己覚知～			
4	信頼関係を構築するためのコミュニケーション      その① 傾聴のための具体的方法      ～相談援助面接の技法～			
5	信頼関係を構築するためのコミュニケーション      その② 傾聴の実際      ～事例を通して学ぶ～			
6	信頼関係を構築するためのコミュニケーション      その③ プレゼンテーション      ～連携の為の伝える力～			
7	対人援助職者のための人間行動理解      その① ストレスコーピング、ソーシャルサポート			
8	対人援助職者のための人間行動理解      その② 喪失・ターミナルケア      ～どのように接するべきか～			
9	患者様・ご家族様への接し方を考える      その① 医療従事者の職業倫理から考える			
10	患者様・ご家族様への接し方を考える      その② 高齢者の身体・心理的特性を理解した対応①			
11	患者様・ご家族様への接し方を考える      その③ 高齢者の身体・心理的特性を理解した対応②			
12	患者様・ご家族様への接し方を考える      その④ 相手のコミュニケーションのタイプを理解した対応			
13	患者様・ご家族様への接し方を考える      その⑤ 相手の想い・ニーズを捉える      ～対応力のセンスを磨く～			
14	多職種連携とコミュニケーション      その① 多職種連携の必要性と難しさ      ～連携の促進要因・阻害要因～			
15	多職種連携とコミュニケーション      その② 全体のまとめ      ～複雑な時代に対応するために～			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	40%	選択式問題と、作文問題を出题します。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点	30%	毎回、個人ワーク、グループ討議を行います。取り組みの姿勢、学びについて評価します。		
その他	30%	毎回、講義の最後に「今日の学び」というミニレポートを書きます。その内容による評価です。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載	毎回、テーマに応じた資料を配布します。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
人間発達学		講義	尾崎 勝彦	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 2 単位)		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>本科目は、人間が「ヒト」ではなく、「人間」としての心身の成長と発達及び加齢について学ぶことによって、医療者として最重要事項のひとつである人間観を涵養することを目的とする。自らの人間観に基づき、患者が、ライフサイクル上のどの地点にあり、どのような心理的・身体的・社会的、そしてスピリチュアルな問題を抱えているかを理解することによって、適切なケアを提供できるようにする。</p>				
授業の到達目標				
<p>①心身の成長と発達・加齢、および各段階における問題点について理解する。 ②発達段階に応じたアプローチができるようになる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	人間発達学とは ①サルからヒトへー人類700万年の歴史 ②生涯発達、生涯学習			
2	主な発達理論 ①フロイトとエリクソン			
3	②ピアジェとボウルビィ			
4	③レビンソンとハビィガースト			
5	ライフサイクルと発達 ①胎児期の心と身体			
6	②乳幼児期の心と身体1			
7	③乳幼児期の心と身体2			
8	④学童期の心と身体			
9	⑤思春期の心と身体			
10	⑥青年期の心と身体			
11	⑦成人期の心と身体			
12	⑧中年期危機のグループワーク			
13	⑨老年期の心と身体1			
14	⑨老年期の心と身体2			
15	⑩死			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%	基礎的な事項の理解ができているか。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	20%	グループワークへの参加と発表、および発表の評価。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
使用しない、ほぼ毎回プリントを配布する。				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
看護のための人間発達学 第5版	舟島なをみ・望月美知代 著	医学書院		
発達心理学概論 新訂	向田久美子 編著	放送大学教育振興会		
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
生物学		講義	沖田 章子	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 2 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
幅広い生物学の中で、医療系の学生として学ばなければならない大きな2つの柱「生物の原理」と「ヒトに関する基本」を修得する。そして、生物学への興味を深め、専門課程を理解できる基礎力をつけることを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 細胞の構造と機能を説明できる。	2. 遺伝子とは何かを説明できる。	3. 発生のしくみを説明できる。		
4. 神経のしくみを説明できる。	5. 代謝のしくみを説明できる。	6. 免疫のしくみを説明できる。		
授業計画				
回	内容			
1	ガイダンス 学習の進め方 生物とは何か			
2	現代を生きる生命 細胞とDNA			
3	現代を生きる生命 ゲノム			
4	生まれ、成長し、死ぬためのしくみ 発生			
5	生まれ、成長し、死ぬためのしくみ 発生と遺伝子			
6	生まれ、成長し、死ぬためのしくみ 遺伝子と科学技術			
7	感じ、動くためのしくみ 感覚と神経			
8	感じ、動くためのしくみ 神経系			
9	生きるためのしくみ 代謝			
10	生きるためのしくみ 循環			
11	子孫を増やすしくみ 生殖			
12	環境に適応するしくみ 外的環境への適応			
13	環境に適応するしくみ 免疫			
14	生命が社会を営むしくみ 社会性を生み出す脳			
15	問題演習とまとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%	生物の基礎となる仕組みを理解できているかを評価する。		
レポート・課題	20%	授業内容の理解度と課題に取り組む姿勢をもとに評価する。		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
みんなの生命科学 第2版	北口哲也・坪井貴司・前川文彦 著	化学同人		
新課程 フォトサイエンス 生物図録 改訂版		数研出版		
自由記載	講義資料、図録に沿ったプリントを配布する。			
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				
予習として教科書や図録を用いて生物用語の確認をすること、日常生活で医療や科学の話題に関心を持つことを希望する。				

# 令和7年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
生理光学 I		講義	荒木 渚	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
視力は眼の状態を把握する上で大切な指標であり、視力に影響する因子の1つに屈折異常があります。この授業では、視力検査や屈折検査に関する基礎知識を身につけるために「視力とその検査の理論」、「屈折異常」を理解することを目的とします。				
授業の到達目標				
①視力の概念を説明できる。 ②屈折異常の定義とその矯正方法を説明できる。 ③レンズ度数をパワークロスで示すことができる。 ④視力や屈折に関連する演習問題を解くことができる。				
授業計画				
回	内容			
1	視力の評価 <span style="float:right">授業開始時期：幾何光学第7回終了後</span>			
2	Landolt環の計算①			
3	Landolt環の計算②			
4	正視・近視			
5	遠視			
6	確認テスト①			
7	屈折度と遠点			
8	屈折矯正 (近視、遠視)			
9	レンズ装用時の屈折度と遠点			
10	確認テスト②			
11	乱視			
12	屈折矯正 (乱視)			
13	軸転換			
14	等価球面度数			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト		習熟度の確認のため随時小テストを実施するが、評価には含まない。		
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
目でみる 視力・屈折検査の進めかた 第2版増補	所敬・山下牧子 著	金原出版		
視能学エキスパート 視能検査学 第2版	和田直子 他編	医学書院		
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 監修	文光堂		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
理解を深めよう 視力検査 屈折検査	所敬 監修	金原出版		
屈折異常とその矯正 改訂第7版	所敬 著	金原出版		
自由記載				
備考				

## 令和7年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
生理光学Ⅱ		講義・演習	荒木 渚	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
これまでに学修した屈折異常の知識を更に深めるとともに、調節との関係を理解することを目的とします。また、調節異常である老視の矯正を行えることを目的とします。				
授業の到達目標				
①不同視と不等像視の関係を説明できる。 ②調節力の計算や、遠点・近点・明視域の位置を求めることができる。 ③調節力に応じた近用眼鏡度数の選択ができる。 ④授業範囲に関連する国家試験の問題を解くことができる。				
授業計画				
回	内容			
1	復習プリント（屈折異常）			
2	復習プリント（プリズム）			
3	不同視			
4	不等像視の検査			
5	屈折度と遠点			
6	調節、明視域			
7	眼鏡装用時の遠点・近点・明視域			
8	老視			
9	調節検査【演習】			
10	近見視力検査			
11	近見視力検査【演習】			
12	近用眼鏡①			
13	近用眼鏡②			
14	頂間距離補正、みかけの調節力			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
目でみる 視力・屈折検査の進めかた 第2版増補	所敬・山下牧子 著	金原出版		
視能学エキスパート 光学・眼鏡 第2版	松本富美子 他編	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
屈折異常とその矯正 改訂第7版	所敬 著	金原出版		
自由記載				
備考				

## 令和7年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
生理光学Ⅱ 演習		講義・演習	荒木 渚・荻野 綾	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
本科目では、クロスシリンダーを用いた乱視矯正の原理を理解し、技術を習得することを目的とします。				
授業の到達目標				
①クロスシリンダー法の原理を説明できる。 ②正しい手順で検査を実践できる。				
授業計画				
回	内容			
1	復習プリント（視力検査、球面レンズ矯正）【講義】			
2	クロスシリンダー法 他覚的屈折検査結果がない時【講義】			
3	クロスシリンダー法 他覚的屈折検査結果がない時①【演習】			
4	クロスシリンダー法 他覚的屈折検査結果がない時②【演習】			
5	クロスシリンダー法 他覚的屈折検査結果がない時③【演習】			
6	クロスシリンダー法 赤緑試験を利用する方法【講義】			
7	クロスシリンダー法 赤緑試験を利用する方法①【演習】			
8	クロスシリンダー法 赤緑試験を利用する方法②【演習】			
9	クロスシリンダー法 他覚的屈折検査結果がある時【講義】			
10	クロスシリンダー法 他覚的屈折検査結果がある時①【演習】			
11	クロスシリンダー法 他覚的屈折検査結果がある時②【演習】			
12	クロスシリンダー法 他覚的屈折検査結果がある時③【演習】			
13	クロスシリンダー法 他覚的屈折検査結果がある時④【演習】			
14	まとめ①【演習】			
15	まとめ②【演習】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	20%	演習レポートにより理解力、表現力を評価します。		
小テスト				
平常点	20%	授業に取り組む姿勢、積極性を評価します。		
その他	60%	実技試験により習熟度を評価します。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
目でみる 視力・屈折検査の進めかた 第2版増補	所敬・山下牧子 著	金原出版		
視能学エキスパート 光学・眼鏡 第2版	松本富美子 他編	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
屈折異常とその矯正 改訂第7版	所敬 著	金原出版		
理解を深めよう 視力検査 屈折検査	所敬 監修	金原出版		
自由記載				
備考				

## 令和7年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
生理光学 I 演習		講義・演習	荒木 渚・荻野 綾	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
視力屈折検査は眼科検査を代表する最も有名な検査です。生理光学 I で学習した内容を基に、検査の実践ができることを目的とします。				
授業の到達目標				
①視力値の判定ができる。 ②球面レンズ矯正ができる。 ③結果を記載できる。 ④オートレフラクトメータを用いて眼の屈折値を測定することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	視力検査、カルテに用いる略語【講義】	授業開始時期：生理光学 I 第3回終了後		
2	視力測定 (視力0.1~1.2) 【演習】			
3	視力測定 (視力0.1以下) 【演習】			
4	近視矯正の方法【講義】	授業開始時期：生理光学 I 第9回終了後		
5	近視矯正 (レフなし) ①【演習】			
6	近視矯正 (レフなし) ②【演習】			
7	遠視矯正の方法【講義】			
8	遠視矯正 (レフなし) 【演習】			
9	雲霧法 (遠視、調節痙攣) 【講義】			
10	球面レンズ矯正 まとめ【講義】			
11	赤緑試験【講義】			
12	オートレフラクトメータ【演習】	授業開始時期：生理光学 I 第14回終了後		
13	球面レンズ矯正 (レフあり) ①【演習】			
14	球面レンズ矯正 (レフあり) ②【演習】			
15	球面レンズ矯正 (レフあり) ③【演習】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	50%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点	10%	授業に取り組む姿勢、積極性を評価します。		
その他	40%	実技試験により習熟度を評価します。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
視能学 第3版	小林義治 他編		文光堂	
目でみる 視力・屈折検査の進めかた 第2版増補	所敬・山下牧子 著		金原出版	
視能学エキスパート 視能検査学 第2版	和田直子 他編		医学書院	
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 監修		文光堂	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
理解を深めよう 視力検査 屈折検査	所敬 監修		金原出版	
屈折異常とその矯正 改訂第7版	所敬 著		金原出版	
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

## 視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
保育学		講義・演習	山本 雅美・山寄 統子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的と概要				
視能訓練士は臨床の場で乳幼児やその保護者と関わり、検査や訓練を行うことがある。本科目は乳幼児の特性及び、乳幼児や保護者と関わる際の留意点等を概説するとともに、年齢に応じた対応や遊びを紹介する。また、保育における現状や課題について概説し、保護者や子どもを取り巻く社会環境の影響についても考える。				
授業の到達目標				
①乳幼児の特性について説明ができる。 ②保育を行う基本的知識とその留意点が説明できる。 ③保育における社会環境の影響について考えることができる。 ④年齢に応じた対応と環境設定を考え、子どもの親しみやすい環境をイメージし、積極的制作活動に取り組むことができる。				
授業計画				
回	内容			
1	ガイダンス 保育とは何か			
2	子ども観とは何か 保育における子ども理解			
3	子どもが育つ環境の理解 保育における健康・安全			
4	保育の内容・方法・計画と実践			
5	保育の現状と課題			
6	現代の子育てと子育て支援			
7	遊びの観点から子どもの発達を考える			
8	年齢に応じた対応と遊び 演習①			
9	年齢に応じた対応と遊び 演習②			
10	年齢に応じた対応と遊び 演習③			
11	子どもが親しみやすい環境の提供 演習①			
12	子どもが親しみやすい環境の提供 演習②			
13	子どもが親しみやすい環境の提供 演習③			
14	子どもが親しみやすい環境の提供 演習④ 制作発表			
15	保育実習における観察と記録			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	20%	演習課題への取り組みや姿勢をもとに評価する。評価基準は別途示す。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
視能学 第3版	小林義治 他編		文光堂	
自由記載	必要に応じて講義資料を配布する。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				
演習で作成する課題について、事前に授業で説明する材料を各自で準備すること。				

## 令和7年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
保健体育 I		講義・実技	田中 靖人	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>様々なスポーツ種目の実践を通し、スポーツの楽しさを味わったり、クラスメートとの親睦を図れることを目指したい。</p> <p>また、スポーツの必要性や安全面を理解し実践に活かせる態度を養成することや、健康とスポーツに関連するトピックについて講義を通して、スポーツへの興味や関心を高めさせたい。</p>				
授業の到達目標				
<p>スポーツをすることの意義を知り、身体を動かすことの楽しさを味わうこと、健康やスポーツについて、興味関心を深めることを目標とする。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	講義：スポーツ活動における我が国の現状			
2	実技：ニュースポーツ1-1（アルティメット、ボッチャ、インディアカ、ドッジビー等）			
3	実技：ニュースポーツ1-2			
4	実技：球技1-1（バスケットボール、バレーボール、フットサル、卓球等）			
5	実技：球技1-2			
6	実技：球技1-3			
7	実技：球技2-1（バスケットボール、バレーボール、フットサル、卓球等）			
8	実技：球技2-2			
9	実技：球技2-3			
10	実技：ニュースポーツ2-1（アルティメット、ボッチャ、インディアカ、ドッジビー等）			
11	実技：ニュースポーツ2-2			
12	実技：ニュースポーツ2-3			
13	講義：健康づくりのために必要なこと1（ダイエット、有酸素運動、メタボリックシンドローム等）			
14	講義：健康づくりのために必要なこと2（ダイエット、有酸素運動、メタボリックシンドローム等）			
15	講義：熱中症とその予防			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	進捗や講義内容によっては、レポートに置き換えることがある。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載	参考文献は定めないが、必要に応じて指示することがある。			
備考				
<p>実技受講の際には、運動にふさわしい服装で臨み、装飾品等は危険防止のため外し、貴重品類は盗難防止のためグランドや講堂には持ってこないこと。</p> <p>けがや病気等で実技ができない場合は報告・相談すること。</p> <p>天候や進捗、履修者数によって実技種目や講義日を変更する場合があります。</p>				

## 令和7年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
保健体育Ⅱ		講義・実技	田中 靖人	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
「保健体育Ⅰ」に続き、生涯にわたってスポーツを継続できる知識や、技術を深めることを目的とする。 後期では特に、健康増進にむけた運動や、簡便な親しみやすかつ、今までに行ったことのない種目を紹介したい。 講義では前期同様、スポーツに関するトピックを紹介しスポーツへの興味や関心を高めさせることや、スポーツを継続できるような知識を伝えたい。				
授業の到達目標				
生涯スポーツの意義を知り、身体を動かすことの重要性を知ること、スポーツに関わるニュース等について、興味関心を深めることを目標とする。				
授業計画				
回	内容			
1	講義：ダイエットプログラムの実際			
2	実技：ニュースポーツ1-1（フライングディスクを使った種目）			
3	実技：ニュースポーツ1-2			
4	実技：ニュースポーツ1-3			
5	実技：ニュースポーツ1-4			
6	実技：ニュースポーツ1-5			
7	講義：ダイエットについて考える			
8	実技：球技3-1（フットサル、バスケットボール、卓球等）			
9	実技：球技3-2			
10	実技：球技3-3			
11	実技：球技3-4			
12	講義：有酸素運動のすすめ			
13	実技：健康づくり運動1-1			
14	実技：健康づくり運動1-2			
15	講義：まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	進度や講義内容によっては、レポートに置き換えることがある。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載	けがや病気等で実技ができない場合は相談すること。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載	参考文献は定めないが、必要に応じて指示することがある。			
備考				
実技受講の際には、運動にふさわしい服装で臨み、装飾品等は危険防止のため外すこと。 天候や進度、履修者数によって実技種目や講義日を変更する場合があります。				

# 令和7年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
臨地実習 I		実習	荒木 渚	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
45 時間 ( 1 単位)		回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>臨地実習 I の目的は以下の通りである。</p> <p>①保育実習は、保育学での学びを実践し、年齢に応じた声掛けや発達や状況に合わせた対応を習得する。</p> <p>②病院 眼科外来見学実習は、眼科業務の主な流れを理解し、医療従事者を目指す者としての責任と自覚、マナーや協調性を身につける。</p>				
授業の到達目標				
<p>1. 実習生としての立場をわきまえ、行動できる。</p> <p>2. 保育実習を通して乳幼児の特性や行動を観察し、発達に応じた対応ができる。</p> <p>3. 病院 眼科見学を通して、視能訓練士を目指す為に今後学ぶ学問の必要性を述べるができる。</p>				
授業計画				
回	内容			
	保育実習 ガイダンス 実習事前評価			
	保育実習 (3日)			
	保育実習 振り返り			
	病院 眼科見学 ガイダンス 実習事前評価			
	病院 眼科見学 (2日)			
	病院 眼科見学 振り返り			
	病院 眼科見学 報告会資料作成			
	病院 眼科見学 報告会			
	保育実習 3日×8時間 病院実習 2日×8時間 臨地実習合計 40時間 自己学習 5時間 合計 45時間			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	100%	実習評価項目により評価します。(ガイダンスで説明します)		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

## 視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
基礎視能矯正学 I		講義・演習	山本 雅美	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
基礎視能矯正学 I では眼位と両眼視、外眼筋の作用、眼球運動について学びます。ここでの知識の習得は後の視能矯正学等の発展に不可欠です。まずは正常を理解し、視能障害を分析的に考える力を養います。				
授業の到達目標				
視能矯正学・視能訓練学に発展するために眼位と両眼視、眼球運動の基本的知識を習得する。 ①正常両眼視機能の成立を理解する。      ②複視の起こり方を眼位別にイメージができる。 ③網膜対応を状態別にイメージができる。      ④外眼筋の作用、眼球運動のメカニズムを理解する。				
授業計画				
回	内容			
1	ガイダンス 眼位の定義 眼位の種類 眼位の状態 斜視・斜位の種類			
2	両眼視の定義 正常両眼視機能 (両眼視野 実際空間と視空間 網膜対応) 確認テスト①(眼位)			
3	正常両眼視機能 (ホロプタ円 Panumの融像感覚圏)			
4	正常両眼視機能 (同時視 融像)			
5	正常両眼視機能 (深径覚 静的立体視と動的立体視 抑制) 両眼視機能の発達 両眼視機能成立の条件			
6	確認テスト② (両眼視)			
7	両眼視機能の異常 (両眼視機能の異常と程度 複視)			
8	両眼視機能の異常 (複視 抑制 混乱視)			
9	確認テスト③ (複視)			
10	両眼視機能の異常 (網膜対応異常)			
11	確認テスト④ (抑制 混乱視 ARC)			
12	外眼筋の単独佐用			
13	単眼運動とその法則・両眼共同運動・離反運動・共同筋と拮抗筋			
14	確認テスト⑤ (外眼筋)			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト		理解の確認のため随時行う。		
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
視能矯正学 改訂第3版	丸尾敏夫 編	金原出版		
視能学エキスパート 視能訓練学 第2版	若山暁美 他編	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

## 令和7年度シラバス

## 視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視能学特論 I		講義・演習	荒木 渚・荻野 綾	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
本科目では、視能訓練士として必要な基本的資質の向上を目指す。クラスメイトだけでなく、他学年や他学科との交流を通して、コミュニケーションスキルを育成し、良好な人間関係を構築するための方法を認識・実践することを目的とする。また、学習方法を学び、知識の定着を図ることも目的とする。				
授業の到達目標				
医療従事者として望ましい言葉遣いができる。 他者との円滑なコミュニケーションが取れる。 学習習慣を定着することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション①			
2	オリエンテーション②			
3	眼科検査を被検者として体験する			
4	課題学習①			
5	課題学習②			
6	課題学習③			
7	レクリエーション①			
8	レクリエーション②			
9	科目学習①			
10	科目学習②			
11	合同実習に向けた練習①			
12	合同実習に向けた練習②			
13	2年生との合同実習			
14	合同実習振り返り・実技試験練習			
15	1年前期の学びを振り返る			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	60%	提出物により評価する。提出期限を守れない場合は減点とする。		
小テスト				
平常点	40%	授業に取り組む姿勢により評価する。		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				
授業予定は前後することがある。				

## 令和7年度シラバス

## 視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
総合視能訓練学演習 I		講義・演習	荒木 渚・荻野 綾	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
本科目では、グループワーク等により自らの知識・技術を振り返り、さらなる向上を目指すことを目的とする。				
授業の到達目標				
これまでに修得した検査を正しい手順で実施することができる。 グループワークを通して前期で学習した知識を定着させることができる。				
授業計画				
回	内容			
1	実習①（被検者）			
2	実習②（検者）			
3	実習の振り返り			
4	グループワーク①（ポスター作成）			
5	グループワーク②（ポスター作成）			
6	グループワーク③（ポスター発表）			
7	IPE①			
8	IPE②			
9	IPE③			
10	IPE④			
11	IPE⑤			
12	IPE⑥			
13	IPE⑦			
14	IPE⑧			
15	1年の学びを振り返る			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	50%	提出物、ポスター作成により評価する。提出期限を守れない場合は減点とする。		
小テスト				
平常点	50%	授業に取り組む姿勢、ポスター発表により評価する。		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				
授業予定は前後することがある。				



# 令和7年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
キャリア教育Ⅱ		講義・演習	石井 里奈	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間 （ 1 単位）		8 回	2 年次	後期
授業の目的と概要				
キャリア教育Ⅱでは、キャリア教育Ⅰを受けて、自己PRを完成させ、履歴書を作成する。また、それらを面接で伝えられるよう、実践練習をする。				
授業の到達目標				
就職活動スキルを習得する。 将来の自分のために今何をすべきか理解を深め、就職に向けての課題や目標を明確にする。				
授業計画				
回	内容			
1	グループディスカッション			
2	履歴書作成			
3	面接練習①（集団）			
4	面接練習②（集団）			
5	面接練習①（個人）			
6	面接練習②（個人）			
7	先輩インタビュー			
8	社会人基礎力アップ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	30%	毎回の授業で作成するシート記入や宿題の課題の結果をもとに評価する。		
小テスト				
平常点	30%	授業への取り組み姿勢、グループワークでの他者理解の姿勢や積極性を評価する。		
その他	40%	面接、グループディスカッションなど実践での内容を評価する。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
「なりたい自分」を目指す シューカツワークBOOK			noa出版	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				





# 令和7年度シラバス

## 視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
眼科画像解析学		講義・演習	谷口 誠典・荻野 綾	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
この授業では、眼科領域で用いられる各種画像検査の臨床的意義を理解することを目標とします。2年生後期というタイミングで基礎医学・視能障害学の知識がある程度備わっていることを前提に、臨床に即した内容を扱います。OCTに関しては実際の機器を用いた操作・撮影・解析を行い、その他の検査は症例画像を用い講義を通じて、視能訓練士としての読影補助力と臨床判断能力を養います。				
授業の到達目標				
①OCT、無散瞳眼底カメラを正しく操作し、画質の良い画像を撮影できる。 ②眼疾患に応じた画像（眼底写真、OCT、蛍光眼底造影、超音波、前眼部OCT、角膜形状）の読み取りができる。				
授業計画				
回	内容			
1	OCT（光干渉断層計）原理と基本撮影			
2	OCT（光干渉断層計）撮影パターン			
3	OCT（光干渉断層計）眼疾患のOCT結果の読影			
4	蛍光眼底造影検査①（FAG）			
5	蛍光眼底造影検査②（ICG、眼疾患の造影検査結果の読影）			
6	蛍光造影検査の説明と同意、アナフィラキシー様ショック			
7	OCT-A、自発蛍光眼底造影（FAF）、超広角走査レーザー検眼鏡、前眼部OCT			
8	X線撮影、CT、MRI			
9	画像検査演習① OCTの撮影【演習】			
10	画像検査演習② OCTの撮影【演習】			
11	症例プリント①			
12	症例プリント②			
13	症例プリント③			
14	症例プリント④			
15	まとめプリント			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 監修	文光堂		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
眼薬理学		講義	宮崎 茂雄	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
視能訓練士は点眼薬を用いて眼科検査をすることがあります。また、様々な薬物治療を受けている患者と接することになります。【眼薬理学】では、臨床現場からの視点で、視能訓練士として、さらには医療従事者として必要な薬物に関連する知識を修得することを目的としています。				
授業の到達目標				
①点眼薬の投与方法、吸収経路、副作用が説明できる。 ②眼科検査で使用される自律神経作動薬の薬理作用、使用方法が説明できる。 ③代表的な眼科疾患治療薬、全身疾患治療薬が説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	ガイダンス 「くすり」の話			
2	創薬とジェネリック医薬品			
3	薬が効くメカニズムと投与方法			
4	眼科局所投与 点眼薬・眼軟膏			
5	点眼法			
6	自律神経と瞳孔作動薬			
7	その他の自律神経薬と抗緑内障薬			
8	小括 (1)			
9	抗菌薬、抗ウイルス薬、ワクチン			
10	抗炎症薬、ほか			
11	その他の眼科治療薬 (1) 注射薬			
12	その他の眼科治療薬 (2) 点眼薬、検査薬			
13	主な全身疾患治療薬			
14	薬物中毒・薬物の眼科的副作用			
15	小括 (2)			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	定期試験のみで評価します。		
レポート・課題				
小テスト		理解度のセルフチェックのための小テストを講義ごとに実施します。		
平常点				
その他				
自由記載	講義内容に沿ったプリント資料を配布します。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
視能学 第3版	小林義治 他編		文光堂	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
点眼薬 クリニカルブック 第2版	庄司純 編著		金原出版	
点眼薬の選び方 第2版	石岡みさき 著		日本医事新報社	
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

## 視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
基礎視能矯正学Ⅲ		講義	山本 雅美・山寄 統子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
本科目では斜視・弱視を評価する上で重要な検査である視能検査の目的と方法及び評価などについて基本的知識を理解することを目的とする。				
授業の到達目標				
①各視能検査の目的と方法を説明することができる。 ②検査結果より両眼視機能・眼球運動・AC/A比の評価ができる。				
授業計画				
回	内容			
1	立体視検査（検査の目的、各検査の原理と手順）			
2	立体視検査（各検査の原理と手順、その他の遠近感覚の検査）			
3	網膜対応検査（赤フィルタ法、Bagolini線条検査、Worth 4 灯試験）			
4	網膜対応検査（残像検査、残像転送検査、その他の網膜対応検査）			
5	網膜対応検査（プリズム順応検査）			
6	眼球運動検査（正常範囲、視診による9方向むき眼位検査、眼性頭位異常の検査）			
7	眼球運動検査（眼性頭位異常の検査、Hess赤緑試験）			
8	眼球運動検査（Hess赤緑試験、複像検査）			
9	眼球運動検査（注視野検査、牽引試験）			
10	輻湊・開散（定義、種類、発達、神経支配と中枢、輻湊・開散の単位）			
11	輻湊・開散（検査 輻湊近点、融像性輻湊検査）			
12	輻湊・開散（検査 調節性輻湊、AC/A比）			
13	輻湊・開散（障害 AC/A比の障害）			
14	まとめ（立体視検査・網膜対応検査）			
15	まとめ（眼球運動検査・AC/A比）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	定期試験で評価する。		
レポート・課題				
小テスト		理解度を確認するために、適宜小テストを行う。		
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 監修	文光堂		
視能学エキスパート 視能訓練学 第2版	若山曉美 他編	医学書院		
視能矯正学 改訂第3版	丸尾敏夫 編	金原出版		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
公衆衛生学		講義	小野 一男・井村 聡子	
時間数(単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 2 単位)		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>本科目では生活習慣病、環境問題および人口構造の変化による社会的な問題など現在の公衆衛生の課題について説明する。その中で、公衆衛生の基本的な考え方であるプライマリヘルスケア（PHC）やヘルスプロモーション（HP）の概念を学ぶと共に、地域社会住民や施設集団におけるセルフケアの重要性と医療従事者の役割を考察する。</p> <p>また、医療従事者にとって重要な感染症を重点的に学習し、感染症の基礎知識および感染制御の技術の習得、感染症に対して速やかに専門的判断と対応ができるよう能力を養う。</p>				
授業の到達目標				
<p>現在の公衆衛生の問題について、理解し、自身の意見を述べるようになる。</p> <p>また、医療従事者としての感染症の知識および予防対策をしっかりと習得できるようになる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	健康の概念と公衆衛生学			
2	人口統計			
3	保健統計			
4	地域保健			
5	疫学			
6	母子保健・学校保健			
7	成人保健			
8	高齢者保健			
9	感染症（1）基礎知識			
10	感染症（2）感染予防とその対策			
11	感染症（3）主な病原微生物			
12	環境保健			
13	精神保健・産業保健			
14	社会保障と社会福祉			
15	国際保健			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	70%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	30%			
自由記載		<small>評価は筆記試験（70%）およびその他【①発表、②課題提出、③受講態度】（30%）により評価を行う。筆記試験は得られた得点で評価する。                      その他は①発表は授業中に実施する発表の内容、②課題提出はレポートなどの提出物の内容、③受講態度は、私語やスマートホンなどの機器類の使用に特に悪いと判断した場合に評価を下げる。</small>		
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
よくわかる専門基礎講座 公衆衛生 第16版	松木秀明 編		金原出版	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

## 令和7年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視覚リハビリテーション（実践）		講義・演習	山本 雅美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
視覚リハビリテーション（理論）の発展として、視覚障害リハビリテーションの実践に必要な知識とロービジョンだけでなく多様な視覚の障害について理解することを目的としている。				
授業の到達目標				
①視覚補助具の選定に必要な倍率の計算ができる。 ②視覚補助具の特徴を捉え選定ができる。 ③視覚異常をきたす他の障害について説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	視覚補助具 光学的補助具の倍率①			
2	視覚補助具 光学的補助具の倍率②			
3	視覚補助具 手持ち式拡大鏡			
4	視覚補助具 卓上式拡大鏡			
5	視覚補助具 単眼鏡			
6	遮光眼鏡			
7	非光学的補助具 補装具・日常生活用具			
8	ロービジョンに関する計算問題			
9	発達障害と視覚異常①			
10	発達障害と視覚異常②			
11	高次脳機能障害と視覚異常①			
12	高次脳機能障害と視覚異常②			
13	その他の障害と視覚異常			
14	まとめ			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト		理解度を確認するための小テストを行う。		
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
視能学 第3版	小林義治 他編		文光堂	
視能学エキスパート ロービジョンケア	新井千賀子 他編		医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視覚リハビリテーション（理論）		講義	山本 雅美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
ロービジョンとは視覚障害によって日常生活において何らかの支障をきたす状態をいう。本科目では視覚障害に対するリハビリテーションのために必要な視覚障害の定義や原因など基礎的な知識及び、ロービジョンケアに必要な視機能評価、社会福祉制度について理解することを目的とする。				
授業の到達目標				
①社会福祉の理念とリハビリテーションの概念を説明することができる。 ②ロービジョンケアに対する視能訓練士の役割を説明することができる。 ③ロービジョン者の視機能評価を行うことができる。 ④ロービジョンに関わる社会福祉制度を説明することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	社会福祉理念とリハビリテーションの概念			
2	障がいの定義 ロービジョン者の見え方を知る			
3	視能障害およびロービジョンの定義と範囲 ①視力の評価			
4	視能障害およびロービジョンの定義と範囲 ②視野の評価			
5	視能障害およびロービジョンの定義と範囲 ③重複障害の評価 その他障害の基準			
6	ロービジョンケアの概念 ロービジョン者数の推移とその原因（小テスト）			
7	視覚障害と福祉・教育・就職について			
8	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト		理解度を確認するための小テストを行う。		
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
視能学 第3版	小林義治 他編		文光堂	
視能学エキスパート ロービジョンケア	新井千賀子 他編		医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視覚生理学Ⅲ		講義・演習	谷口 誠典・荻野 綾	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
検影法と電気生理学各種検査の講義と演習を行う。				
授業の到達目標				
検影法と電気生理学各種検査の原理を理解し国家試験過去問を解くことができる。				
授業計画				
回	内容			
1	検影法			
2	検影法【演習】			
3	検影法【演習】			
4	電気生理学の基礎 原子の構造			
5	電気生理学検査の用語			
6	波形とは			
7	網膜電図（正常波形）			
8	網膜電図（異常波形）			
9	特殊な網膜電図、国試過去問（ERG）、動画鑑賞（ERG）			
10	他局所ERGとAZOOR、OMG			
11	視覚誘発電位①			
12	視覚誘発電位②			
13	眼球電図 EOG 【網膜色素上皮細胞の機能評価】			
14	眼球電図 EOG 【眼球運動の解析と記録】、外眼筋筋電図 EMG			
15	まとめプリント			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 監修	文光堂		
視能学エキスパート 視能検査学 第2版	和田直子 他編	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視能矯正学演習Ⅱ		講義・演習	荒木 渚・山寄 統子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
複数の眼科一般検査を一連の流れで行い、基本の検査原理と手順に則った行動を系統だてて実行できるようになることを目的とする。				
授業の到達目標				
①複数の検査を実施する順番を考慮することができる。 ②患者の安全と感染防止に配慮した誘導・検査を実施できる。 ③一連の検査結果を系統だてて考察することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	復習プリント（レフケラ、NCT）【講義】			
2	復習プリント（クロスシリンダー法）【講義】			
3	レフケラ、NCT、レフ値参考のクロスシリンダー法 ①【演習】			
4	レフケラ、NCT、レフ値参考のクロスシリンダー法 ②【演習】			
5	レフケラ、NCT、レフ値参考のクロスシリンダー法 ③【演習】			
6	レフケラ、NCT、レフ値参考のクロスシリンダー法 ④【演習】			
7	クロスシリンダー法 過矯正スタート【講義】			
8	レフ値参考のクロスシリンダー法 過矯正スタート ①【演習】			
9	レフ値参考のクロスシリンダー法 過矯正スタート ②【演習】			
10	前回値矯正の手順【講義】			
11	前回値矯正 ①【演習】			
12	前回値矯正 ②【演習】			
13	KBチェックとdo矯正【講義】 授業開始時期：生理光学Ⅲ演習 第12回終了後			
14	KBチェックとdo矯正 ①【演習】			
15	KBチェックとdo矯正 ②【演習】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	100%	実技試験と口頭試問を行い、その合計で評価します。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 監修	文光堂		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視能矯正学演習Ⅲ		演習	山本 雅美・山寄 統子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
本演習では基礎視能矯正学Ⅲの授業と並行し、斜視検査の基礎と応用について学びます。基礎的知識を固めながら、適切に検査を実施し、得られた検査結果を評価し考察する力を身につけることを目的としています。				
授業の到達目標				
①各視能検査の目的、方法、結果の解釈について理解する。 ②正しい検査手順で行い、カルテ記載ができる。 ③各検査の違いを理解し、結果を評価することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	立体視検査・網膜対応検査①（実習室） 授業開始時期：基礎視能矯正学Ⅲ第5回終了後			
2	立体視検査・網膜対応検査②（実習室）			
3	立体視検査・網膜対応検査③（実習室）			
4	立体視検査・網膜対応検査④（実習室）			
5	立体視検査・網膜対応検査⑤（実習室）			
6	眼球運動検査①（実習室） 授業開始時期：基礎視能矯正学Ⅲ第9回終了後			
7	眼球運動検査②（実習室）			
8	眼球運動検査③（実習室）			
9	眼球運動検査④（実習室）			
10	眼球運動検査⑤（実習室）			
11	輻湊・開散の検査①（実習室） 授業開始時期：基礎視能矯正学Ⅲ第13回終了後			
12	輻湊・開散の検査②（実習室）			
13	輻湊・開散の検査③（実習室）			
14	輻湊・開散の検査④（実習室）			
15	輻湊・開散の検査⑤（実習室）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	50%	毎回の授業で取り組む課題について、理解力、考察力、表現力を評価する。（評価基準は別途示す。）		
小テスト				
平常点				
その他	50%	実技試験により評価を行う。（評価基準は別途示す。）		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 監修	文光堂		
視能学エキスパート 視能訓練学 第2版	若山曉美 他編	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

## 令和7年度シラバス

## 視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視能矯正学演習Ⅳ		講義・演習	谷口 誠典	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
学童期以降の小児や成人に対する眼鏡合わせの理論を学ぶ。眼鏡合わせは、新人の視能訓練士が苦手意識をもつことの多い検査である。なぜなら患者のこれまでの眼鏡の装用経験の有無や所持メガネ度数、装用期間、患者の視生活の状況、見え方に対する感覚順応力が患者一人ひとり異なるからである。この講義では理論的な処方度数の決定方法を伝えていきます。				
授業の到達目標				
①眼鏡合わせに必要な知識を習得する。 ②眼鏡合わせの際に、まず患者に装用させるレンズの第一選択ができる。				
授業計画				
回 内容				
1	成人の眼鏡合わせ（クラスメイトに対して）【実習】			
2	成人の眼鏡合わせ（近視）（講義）			
3	成人の眼鏡合わせ（近視）【実習】			
4	成人の眼鏡合わせ（遠視）（講義）			
5	成人の眼鏡合わせ（遠視）【実習】			
6	成人の眼鏡合わせ（乱視）（講義）			
7	成人の眼鏡合わせ（乱視）【実習】			
8	成人の眼鏡合わせ（不同視）（講義）			
9	成人の眼鏡合わせ（不同視）【実習】			
10	実験近視、学校健診、3歳児健診（講義）			
11	眼鏡フレームとフィッティング、多焦点レンズ計算問題の復習（講義）			
12	多焦点レンズ（二重焦点、累進 遠近両用）（講義）			
13	多焦点レンズ（累進 中近、近近）（講義）			
14	プリズム眼鏡（組み込み式、Fresnel）、カラーレンズ（講義）			
15	成人の眼鏡合わせ（クラスメイトに対して）【実習】、まとめプリント（講義）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	70%			
レポート・課題	30%	実習時に配布する課題プリントに対する取り組みを評価する		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
視能学 第3版	小林義治 他編		文光堂	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
視能学エキスパート 光学・眼鏡 第2版	松本富美子 他編		医学書院	
自由記載				
備考				

## 令和7年度シラバス

## 視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視能訓練学 I 演習		講義・演習	山本 雅美	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
視能訓練学各論 I で習得した知識を基に、斜視視能矯正訓練および斜視手術の応用として、症例の検査結果・病態評価・斜視型別から必要な訓練法や術式を選択できることを目的とします。				
授業の到達目標				
①斜視治療に必要な検査結果を適切に評価できる。 ②斜視型別に適切な訓練手順を実践することができる。 ③症例の検査結果・病態評価・斜視型別から必要な訓練法や術式を選択することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	斜視視能矯正訓練	訓練方法演習 (実習室)		
2		訓練方法演習 (実習室)		
3		抑制除去訓練		
4		網膜対応異常訓練 融像訓練		
5		訓練法 訓練の適応		
6		臨床問題		
7	斜視手術	斜視手術の実際		
8		斜視手術適応と組み合わせ		
9		斜視手術による合併症		
10		AV型・回旋		
11		術式適応・術式		
12		臨床問題		
13	斜視視能矯正	ケーススタディ		
14	斜視視能矯正	ケーススタディ		
15	まとめ	定期試験対策		
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%	斜視視能矯正の応用理解を評価する。		
レポート・課題	20%	斜視視能矯正の応用理解をもとに適切にレポートを作成しているかを評価する。		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
視能学エキスパート 視能訓練学 第2版	若山暁美 他編		医学書院	
視能矯正学 改訂第3版	丸尾敏夫 編		金原出版	
視能学 第3版	小林義治 他編		文光堂	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

## 視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視能訓練学Ⅱ（弱視）		講義	谷口 誠典	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
この科目では、医学的弱視について総合的に学ぶ。視能訓練士は臨床の場で弱視患者に対して検査や訓練を行う為、基本的知識をはじめ、臨床で役立つ検査や訓練法を理解することが必要である。これまでに習得した検査法や斜視の知識を関連付けて授業を進める。				
授業の到達目標				
①小児の視能特性と視覚の発達について学ぶ。 ②弱視の定義・概念について説明ができる。 ③弱視の原因、病態、検査、治療を理解している。 ④心因性視力障害について理解し、検査時の注意点を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	小児の視能特性と視覚の発達 / 弱視の定義・病態（総論） / 弱視治療（総論）			
2	弱視の分類・各型（屈折異常弱視、経線弱視、不同視弱視）			
3	検査と治療			
4	弱視の分類・各型（斜視弱視・微小斜視弱視）			
5	検査と治療			
6	弱視の検査（統合系検査）弱視の分類・各型（形態覚遮断弱視）			
7	検査と治療			
8	弱視の治療（弱視治療用眼鏡等、眼鏡処方、遮閉法）			
9	弱視の治療（薬理的視能矯正）			
10	弱視の治療（固視矯正訓練、家庭での訓練）			
11	ケーススタディ①			
12	ケーススタディ②			
13	心因性視覚障害（身体表現性障害）①			
14	心因性視覚障害（身体表現性障害）②			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	定期試験にて理解度を評価する。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
視能矯正学 改訂第3版	丸尾敏夫 編	金原出版		
視能学エキスパート 視能訓練学 第2版	若山曉美 他編	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

## 視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視能訓練学Ⅱ 演習		演習	山本 雅美・荒木 渚・山岸 統子・荻野 綾	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>本科目は、視能訓練学各論Ⅱで学んだ内容をもとに、これまでに学んだ視能矯正の知識の振り返り、および視能矯正を実践に活用できるよう演習を行いながら授業を進める。さらに、OSCE（客観的臨床力試験）は、3年次の臨地実習に不可欠な、知識、技能、態度を統合した臨床能力を評価する。</p>				
授業の到達目標				
<p>①病歴の取り方、聴取すべき項目を理解し問診することができる。                  ②患者の協力が得られるよう検査の目的・方法や治療方針についてわかりやすく説明ができる。                  ③検査の特徴や注意点を理解し、患者の状況に応じた適切な検査が正しい手順で行える。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	POSによる視能矯正、医療面接について			
2	先天性上斜筋麻痺症例に関する問診の実践（視能訓練学各論Ⅱ第1回終了後）			
3	先天性上斜筋麻痺症例に関する検査の振り返り（視能訓練学各論Ⅱ第2回終了後）（実習室）			
4	間欠性外斜視症例に関する問診の実践（視能訓練学各論Ⅱ第3回終了後）			
5	間欠性外斜視症例に関する検査の振り返り（視能訓練学各論Ⅱ第4回終了後）（実習室）			
6	屈折性調節性内斜視症例に関する問診の実践（視能訓練学各論Ⅱ第5回終了後）			
7	屈折性調節性内斜視症例に関する検査の振り返り（視能訓練学各論Ⅱ第6回終了後）（実習室）			
8	弱視症例に関する問診の実践（視能訓練学各論Ⅱ第7回終了後）			
9	弱視症例に関する検査の振り返り（視能訓練学各論Ⅱ第8回終了後）（実習室）			
10	外転神経麻痺症例に関する問診の実践（視能訓練学各論Ⅱ第9回終了後）			
11	外転神経麻痺症例に関する検査の振り返り（視能訓練学各論Ⅱ第10回終了後）（実習室）			
12	滑車神経麻痺症例に関する問診の実践（視能訓練学各論Ⅱ第11回終了後）			
13	滑車神経麻痺症例に関する検査の振り返り（視能訓練学各論Ⅱ第12回終了後）（実習室）			
14	OSCE（客観的臨床能力試験）対策			
15	OSCE（客観的臨床能力試験）対策			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	20%	課題について理解力、考察力、表現力を評価します。評価基準は別途示す。		
小テスト				
平常点				
その他	80%	OSCE（客観的臨床能力試験）にて評価します。評価基準は別途示す。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 監修	文光堂		
視能学エキスパート 視能訓練学 第2版	若山曉美 他編	医学書院		
視能矯正学 改訂第3版	丸尾敏夫 編	金原出版		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視能訓練学各論 I		講義	山本 雅美	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
斜視の治療は、斜視手術と視能矯正訓練を組み合わせで行います。本講義では、基礎視能矯正学で習得した知識をもとに、斜視の視能矯正訓練および斜視手術の原理を理解することを目的とします。				
授業の到達目標				
①斜視視能矯正訓練の原理・方法を理解し、説明することができる。 ②斜視手術の原理を知り、斜視型に応じて術式の選択ができる。				
授業計画				
回	内容			
1	ガイダンス 視能矯正・訓練の定義 視能矯正訓練の目的と目標 視能矯正・訓練の原則			
2	視能矯正・訓練の種類 インフォームドコンセント 適応と予後に影響する因子 期間と中止時期 効果の判定と評価			
3	視能矯正・訓練の実際 単眼固視訓練 抑制除去訓練①			
4	視能矯正・訓練の実際 抑制除去訓練②			
5	視能矯正・訓練の実際 網膜対応異常の矯正訓練			
6	視能矯正・訓練の実際 融像訓練			
7	視能矯正・訓練の実際 輻湊訓練 眼球運動訓練 視能矯正確認テスト			
8	斜視手術の適応と禁忌・時期と目標			
9	斜視手術術式①			
10	斜視手術術式②			
11	手術方針・量定			
12	斜視型別の手術1			
13	斜視型別の手術2			
14	斜視型別の手術3			
15	術前術後検査・合併症 斜視手術確認テスト			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	理解度を評価する。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載	理解度を確保する為に適宜確認テストを行う。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
視能学エキスパート 視能訓練学 第2版	若山曉美 他編		医学書院	
視能矯正学 改訂第3版	丸尾敏夫 編		金原出版	
視能学 第3版	小林義治 他編		文光堂	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

## 令和7年度シラバス

## 視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視能訓練学各論Ⅱ		講義	山本 雅美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
視能訓練士は眼科検査のほぼ全般を担当するが、流れ作業の検査では質の高い視能矯正を提供することはできません。本科目では、患者の主訴や病歴から疾患を想起し、患者のニーズに応じた視能検査の立案と実施、評価ができるよう、症例データを基に課題を進めていきます。				
授業の到達目標				
①主訴・初期検査から疾患が想起できる。 ②必要な視能検査の目的と正しい手順を説明できる。 ③症例の病態分析と評価が出来る。 ④病態分析により適切な検査・治療方針を立案できる。				
授業計画				
回	内容			
1	先天性上斜筋麻痺①			
2	先天性上斜筋麻痺②			
3	間欠性外斜視①			
4	間欠性外斜視②			
5	屈折性調節性内斜視①			
6	屈折性調節性内斜視②			
7	小児の視能評価①			
8	小児の視能評価②			
9	不同視弱視①			
10	不同視弱視②			
11	外転神経麻痺①			
12	外転神経麻痺②			
13	滑車神経麻痺①			
14	滑車神経麻痺②			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	定期試験で評価する。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
視能学 第3版	小林義治 他編		文光堂	
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 監修		文光堂	
視能学エキスパート 視能訓練学 第2版	若山曉美 他編		医学書院	
視能矯正学 改訂第3版	丸尾敏夫 編		金原出版	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視能検査学Ⅱ		講義・演習	谷口 誠典・山寄 統子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
眼底カメラ、細隙灯顕微鏡、超音波検査、眼軸長検査、眼内レンズ度数計算、直像鏡・倒像鏡について講義と演習、実習を行います。				
授業の到達目標				
①各種検査の原理と目的を理解する。 ②各種検査を実施できる。				
授業計画				
回	内容			
1	眼底カメラ 講義			
2	眼底カメラ 講義			
3	細隙灯顕微鏡、フォトスリット 講義			
4	超音波検査（Aモード、Bモード）、光眼軸（IOLマスター） 眼内レンズ 講義			
5	無散瞳眼底カメラ、細隙灯顕微鏡、超音波検査【演習】			
6	超音波検査、IOLマスター【演習】			
7	隅角 講義と自身の隅角確認 眼底検査（直像鏡・倒像鏡）【演習】			
8	【散瞳カメラ 後極】【演習】①			
9	【散瞳カメラ 後極】【演習】①			
10	【散瞳カメラ 後極、周辺】【演習】②			
11	【散瞳カメラ 後極、周辺】【演習】②			
12	【散瞳カメラ 後極、周辺】【演習】③			
13	【散瞳カメラ 後極、周辺】【演習】③			
14	各種検査演習【演習】			
15	まとめプリント			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	50%			
レポート・課題	50%			
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 監修	文光堂		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

## 視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視能検査学総合演習		演習	山寄 統子・谷口 誠典	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>これまでに学習した各種眼科検査の知識と技能をもとに、視能訓練士として必要な「一連の検査の順序を組み立て、臨床的に矛盾のないデータを導き出す力」を養うことを目的とする。単発的な検査技術の習得にとどまらず、複数の検査結果を総合的に捉え、論理的な思考力・判断力を身につける。また、検査者としての立ち居振る舞いや説明力にも重点を置く。</p>				
授業の到達目標				
<p>①視野検査（動的・量的）の基本（準備、説明、測定）を理解し実践できる。                  ②異常視野に対する動的視野の測定方法を理解し、実践できる。                  ③眼科検査（視力・屈折、眼圧、眼位、視野、両眼視機能など）を適切な手順で正確に実施できる。                  ④一連の検査結果を総合的に読み取り、矛盾や異常所見に気づき、自ら考察・説明できる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	動的視野検査 静的視野検査 振り返り			(山寄)
2	緑内障（講義）			(山寄)
3	動的視野症例実技 静的視野【実習①】	/	検査全般【実習①'】	(山寄/谷口)
4	動的視野症例実技 静的視野【実習②】	/	検査全般【実習②'】	(山寄/谷口)
5	動的視野症例実技 静的視野【実習③】	/	検査全般【実習③'】	(山寄/谷口)
6	動的視野症例実技 静的視野【実習④】	/	検査全般【実習④'】	(山寄/谷口)
7	動的視野症例実技 静的視野【実習①'】	/	検査全般【実習①】	(山寄/谷口)
8	動的視野症例実技 静的視野【実習②'】	/	検査全般【実習②】	(山寄/谷口)
9	動的視野症例実技 静的視野【実習③'】	/	検査全般【実習③】	(山寄/谷口)
10	動的視野症例実技 静的視野【実習④'】	/	検査全般【実習④】	(山寄/谷口)
11	実技試験に向けて検査全般実習			(山寄/谷口)
12	眼科検査機器の实地体験（ニデック）			
13	眼科検査機器の实地体験（ニデック）			
14	眼科検査機器の实地体験（ニデック）			
15	眼科検査機器の实地体験（ニデック）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	20%	課題に対し適切にレポートを作成できているかを評価する		
小テスト				
平常点				
その他	80%	口頭試問と実技試験で評価する		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
視能学 第3版	小林義治 他編		文光堂	
理解を深めよう 視野検査 第1版補訂版	松本長太 監修		金原出版	
視能学エキスパート 視能検査学 第2版	和田直子 他編		医学書院	
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 監修		文光堂	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

## 視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視能障害学Ⅱ		講義	宮崎 茂雄	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
【視能障害学Ⅱ】では視機能に重大な影響を持つ後眼部疾患や、全身疾患に合併する眼疾患などの病態生理が説明できることを目的とします。これらの病態生理が確実に把握できていることで、眼科疾患の診断と治療評価のための眼科検査の意義の理解が明確になり、視能訓練士としてのレベルの高い業務が行えるようになります。				
授業の到達目標				
①眼球の解剖・生理と関連付けて、後眼部疾患の病態生理が理解できる。 ②後眼部疾患の診断や治療評価に、視能訓練士が行った検査結果がどのように役立てられるのかが理解できる。				
授業計画				
回	内容			
1	ぶどう膜疾患（1） 先天異常、ぶどう膜炎（総論）			
2	ぶどう膜疾患（2） ぶどう膜炎（各論）、腫瘍			
3	網膜硝子体疾患（1） 主な眼底変化			
4	網膜硝子体疾患（2） 網膜循環障害（網膜中心動脈脈閉塞症、ほか）			
5	網膜硝子体疾患（3） 黄斑部疾患（加齢黄斑変性、ほか）			
6	網膜硝子体疾患（4） 夜盲性疾患、小児網膜疾患			
7	網膜硝子体疾患（5） 網膜剥離、硝子体疾患			
8	網膜硝子体疾患（6） 治療法（光凝固、硝子体手術、硝子体注射）			
9	眼窩疾患 甲状腺眼症、眼窩吹き抜け骨折、ほか			
10	全身疾患と眼（1） 循環器系疾患、糖尿病、ほか			
11	全身疾患と眼（2） 膠原病と近縁疾患、感染症、ほか			
12	眼外傷 鈍的眼外傷、外傷性視神経症、ほか			
13	その他の眼疾患（1） 神経眼科疾患			
14	その他の眼疾患（2） 色覚異常、屈折異常、救急疾患、ほか			
15	総括			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	定期試験のみで評価します。		
レポート・課題				
小テスト		理解度のセルフチェックのため小テストを講義ごとに実施します。		
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
病気がみえる vol.12 眼科	医療情報科学研究所 編		メディックメディア	
視能学 第3版	小林義治 他編		文光堂	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
神経眼科 I		講義	谷口 誠典	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
核・核下性疾患について、脳神経の走行や血管などできるだけ多くのイラストを描きながら、複雑な神経や血管の走行をわかりやすく解説し病態生理を説明します。				
授業の到達目標				
①核・核下性疾患の病態生理を理解する。 ②分野毎に国家試験過去問題を解くことで、疾患の重要項目を掴むことができる。				
授業計画				
回	内容			
1	うっ血乳頭			
2	視神経炎、RAPD			
3	視神経症 (虚血性、外傷性など)			
4	練習問題			
5	動眼神経麻痺			
6	滑車神経麻痺、先天性代償不全性IV麻痺			
7	外転神経麻痺、複合筋麻痺			
8	脳卒中、片頭痛			
9	眼球突出 (Basedow病)			
10	視路疾患① (頭蓋内疾患)			
11	視路疾患② (特殊な視野、高次脳障害)			
12	重症筋無力症、慢性進行性外眼筋麻痺			
13	前期の総復習①			
14	前期の総復習② 参考動画の鑑賞			
15	前期の総復習③			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト	0%	自己の理解度を確認する為、分野毎に小テストを実施する。小テストは評価基準には入れない。		
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
視能学 第3版	小林義治 他編		文光堂	
病気がみえる vol.12 眼科	医療情報科学研究所 編		メディックメディア	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				
病態生理を理解することは、診察に役立つ検査を実践することに繋がります。頑張ってください。				

科目名		授業形態	担当教員名	
神経眼科Ⅱ		講義	谷口 誠典	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
核・核下性疾患、核上性疾患、眼振について、脳神経の走行や血管などできるだけ多くのイラストを描きながら、複雑な神経や血管の走行をわかりやすく解説し病態生理を説明します。				
授業の到達目標				
①各単元ごとに配布する練習問題で要点を理解できる。 ②国家試験過去問題を解くことができ、国家試験問題の出題傾向を掴む。				
授業計画				
回	内容			
1	重症筋無力症、慢性進行性外眼筋麻痺			
2	斜視特殊型（Duane症候群、Brown症候群、固定斜視）			
3	斜視特殊型（眼窩底骨折、sagging eye syndrome、generalfibrosis syndrome）			
4	眼瞼・顔面表情筋の障害（眼瞼けいれん、マーカスガン症候群）、自律神経、脱神経過敏性の獲得、light-near dissociation			
5	瞳孔疾患（Horner症候群、瞳孔緊張症）			
6	瞳孔疾患（動眼神経麻痺、Argyll Robertson症候群、その他）			
7	眼球運動の種類、PPRF症候群、MLF症候群、One and a half症候群			
8	Parinaud症候群、double elevator palsy			
9	輻輳、開散の障害			
10	眼振、波形分類、生理的眼振			
11	先天眼振と治療（非観血療法）、潜伏眼振			
12	眼振阻止症候群			
13	後天眼振、眼振の記載、非眼振性異常眼球運動、眼振まとめ			
14	総まとめのプリント①（一問一答、国試過去問40～47回）			
15	総まとめのプリント②（国試過去問）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載	分野ごとに小テストを実施するが、評価には含まない。自己理解度を確認するために実施する。			
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				



# 令和7年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
生理光学Ⅲ		講義	荒木 渚	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
視能訓練士として勤務する上で重要な知識となる、コンタクトレンズの種類・装着方法などについて学習します。また、中心CFE検査と特殊な視力検査の方法を習得することを目的とします。				
授業の到達目標				
①コンタクトレンズの特徴を説明できる。 ②中心CFE検査の目的や方法を理解し測定できる。 ③logMAR視力やコントラスト視力の検査を行える。 ④授業内容に関わる国家試験問題を解くことができる。				
授業計画				
回	内容			
1	コンタクトレンズの種類と構造			
2	HCL処方			
3	コンタクトレンズ①			
4	コンタクトレンズ②			
5	コンタクトレンズ③			
6	コンタクトレンズ④			
7	コンタクトレンズ⑤			
8	コンタクトレンズ⑥			
9	オルソケラトロジー①			
10	オルソケラトロジー②			
11	オルソケラトロジー③			
12	中心CFE			
13	logMAR値の計算			
14	コントラスト視力			
15	中心CFE／コントラスト視力【演習】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	1～2回、12～15回の授業内容について定期試験で評価します。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
視能学 第3版	小林義治 他編		文光堂	
視能学エキスパート 光学・眼鏡 第2版	松本富美子 他編		医学書院	
視能学エキスパート 視能検査学 第2版	和田直子 他編		医学書院	
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 監修		文光堂	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
生理光学Ⅲ演習		講義・演習	荒木 渚・山寄 統子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
乱視表を用いた乱視矯正（雲霧法）の原理と検査方法を理解することを目的とします。 眼鏡に関する基本的知識を学び、レンズメーターでの眼鏡度数が測定できることを目的とします。				
授業の到達目標				
①雲霧法による乱視矯正を理解し実践できる。 ②眼鏡のレンズ材質やレンズデザインの特徴を説明できる。 ③レンズメーターで各種眼鏡の度数を測定することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	雲霧法 他覚的屈折検査結果がない時【講義】 授業開始時期：視能矯正学演習Ⅱ 第9回終了後			
2	雲霧法 他覚的屈折検査結果がない時 ①【演習】			
3	雲霧法 他覚的屈折検査結果がない時 ②【演習】			
4	雲霧法 他覚的屈折検査結果がある時【講義】			
5	雲霧法 他覚的屈折検査結果がある時 ①【演習】			
6	雲霧法 他覚的屈折検査結果がある時 ②【演習】			
7	雲霧法 他覚的屈折検査結果がある時【講義】			
8	眼鏡 ①【講義】			
9	眼鏡 ②【講義】			
10	レンズメーター ①【演習】			
11	レンズメーター ②【演習】			
12	レンズメーター ③【演習】			
13	雲霧法／レンズメーター ①【演習】			
14	雲霧法／レンズメーター ②【演習】			
15	雲霧法／レンズメーター ③【演習】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%			
レポート・課題	10%	理解度を評価します。		
小テスト				
平常点	10%	授業に取り組む姿勢、積極性を評価します。		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
目でみる 視力・屈折検査の進めかた 第2版増補	所敬・山下牧子 著	金原出版		
視能学エキスパート 光学・眼鏡 第2版	松本富美子 他編	医学書院		
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 監修	文光堂		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
精神衛生学		講義・演習	木川 恵理	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
精神衛生の基礎として、様々な精神疾患への理解を深めることを目的とする。				
授業の到達目標				
精神疾患に関するメンタルヘルスの知識を深め、必要に応じてセルフケアが行えるよう演習を通して学ぶ。				
授業計画				
回	内容			
1	ガイダンス 精神衛生とストレスマネジメント（ストレス関連疾患）			
2	うつ病と双極性障害（内因性精神疾患）			
3	統合失調症（内因性精神疾患）			
4	対人関係とコミュニケーション			
5	子どもの発達障害			
6	大人の発達障害・高次脳機能障害			
7	認知症（器質性精神疾患）			
8	子どもの不安障害			
9	大人の不安障害			
10	解離性障害・身体症状症			
11	トラウマ・PTSD			
12	愛着障害・パーソナリティ障害			
13	強迫性障害・依存症			
14	摂食障害			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	精神衛生の授業で扱った概要の理解度を評価基準とする。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
専門職連携論		講義・演習	山崎 統子・鈴木 則章・岩井 克磨・林田 健・坂東 恵美 子・嘉納 綾・平口 昌広・三村 明美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
良質な医療を実践するためには、多種類の医療専門職の協働（チーム医療）が不可欠である。本科目では専門職種を理解し、チーム医療の構成員として自身の専門性を活かし、積極的に医療に参画し、より安全で質の高い医療を実践できるように医療の流れ、医療チーム構成員とその職能・役割など、チーム医療に関する基本的知識を習得することを目的とする。				
授業の到達目標				
①医療の流れ、医療チーム構成員とその職能・役割を述べるができる。 ②1つの症例に対して各職種から見た視点を理解し、チーム医療における視能訓練士の視点を提案することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	チーム医療とは、視能訓練士の仕事と同一症例の関り			
2	診療放射線技師の仕事と同一症例の関り			
3	臨床工学技士の仕事と同一症例の関り			
4	理学療法士の仕事と同一症例の関り			
5	作業療法士の仕事と同一症例の関り			
6	言語聴覚士の仕事と同一症例の関り			
7	歯科衛生士の仕事と同一症例の関り			
8	その他の医療職種の仕事と同一症例の関り			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	100%			
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
病気がみえる vol.12 眼科	医療情報科学研究所 編	メディックメディア		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
特別支援教育概論		講義	荒木 渚	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 ( 1 単位)		8 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
インクルーシブ教育システム下における特別支援教育の基礎的理解を目的とします。視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱、発達障害を概括的に学び、インクルーシブ教育システムと関連付けて理解します。				
授業の到達目標				
①日本におけるインクルーシブ教育システムについて概要を理解する。 ②視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱、発達障害の概要を理解する。 ③上記の障害に関する教育の内容・方法、今日的教育課題について概要を理解する。				
授業計画				
回	内容			
1	障害とは 障害児教育の歴史			
2	特別支援教育の理念と制度			
3	特別支援学校の教育について			
4	視覚障害教育と聴覚障害教育			
5	知的障害教育と肢体不自由教育			
6	病弱教育と発達障害教育			
7	特別支援学級と通級による指導			
8	特別支援教育の現状と今後の課題			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	100%			
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				



科目名		授業形態	担当教員名	
臨床医学 I		講義	宮崎 茂雄	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 ( 1 単位)		8 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
<p>内科的疾患をはじめとする全身的背景は眼科疾患の発症とその治療に影響を及ぼします。特に本邦のような超高齢社会において質の高い眼科臨床をおこなうためには、多彩な全身的背景をよく理解しておくことが求められます。【臨床医学 I】では、頻度の高い内科的、全身の疾患の理解を深め、質の高い眼科臨床の実践につなげていくことを目的とします。</p>				
授業の到達目標				
<p>①頻度の高い内科的、全身的疾患が説明できる。          ②眼病変を伴う全身的疾患が説明できる。          ③高齢者にみられやすい症状、疾患が理解できる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	総論 — 主要症候、病態の基礎			
2	各論 — 感覚器疾患、脳・神経疾患			
3	循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患			
4	代謝・内分泌疾患、腎・泌尿器・生殖器疾患、血液疾患			
5	アレルギー疾患、膠原病・自己免疫疾患、感染症			
6	精神神経系疾患、運動器系疾患、悪性腫瘍、小児科疾患、皮膚科疾患			
7	老齢期疾患、アイフレイル			
8	総括			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	定期試験で評価します。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載	理解度のセルフチェックのための小テストを講義ごとに実施します。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載	講義内容に沿ったプリント資料を配布します。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
視能学 第3版	小林義治 他編		文光堂	
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
臨床医学Ⅱ		講義・演習	鈴木 則章	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間 （ 1 単位）		8 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
眼科外来および病棟では医師・看護師・視能訓練士の連携が必須である。眼科に携わる看護師による眼科受診患者の特徴を説明する。また、感染予防や救急時の対応などについても説明し、視能訓練士として臨床で安全に業務が行えるよう、知識や手技を習得できることを目的とする。				
授業の到達目標				
①感染予防に対する知識を理解し、適切な手洗いを実践できる。 ②救急時対応の知識を理解し、視能訓練士として行える対応を説明できる。				
授業計画				
回 内容				
1	看護師の歴史 保助看法 眼科看護師の仕事			
2	眼科を受診する患者の特徴とは（グループワーク） 特に多い高齢者の特徴			
3	医療安全 危険予知トレーニング（KYT）のグループワーク			
4	感染予防（1）感染とは 感染経路 標準予防策（スタンダードプリコーション）			
5	感染予防（2）眼科外来での感染予防とは 手洗い実習			
6	バイタルサイン（1）バイタルサインとは 体温、呼吸のしくみ			
7	バイタルサイン（2）脈拍、血圧のしくみ ショックとは			
8	救急時の看護 心肺蘇生について 全体を通じてのまとめ 医療者の接遇			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	80%	設定した内容に対し授業を通じ学び、感じた事を自身の意見として述べていること。		
小テスト				
平常点	20%	授業態度。		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
臨床心理学		講義	永富 陽子	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 2 単位)		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
自己理解と他者理解を深めながら、臨床現場で役立つ幅広い知識の獲得を目的とする。講義では体験やディスカッションを多く取り入れ、考える機会を提供したい。				
授業の到達目標				
①臨床心理学の基礎的概念について説明できる。 ②さまざまな心理アセスメント技法の概要を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション 臨床心理学とは			
2	アセスメント① 心理面接			
3	アセスメント② 心理検査 (質問紙法・投影法)			
4	アセスメント③ 心理検査 (描画法・知能検査)			
5	アセスメント④ 心理検査 (乳幼児・高齢者向)			
6	心理療法① 来談者中心療法・遊戯療法			
7	心理療法② 行動療法			
8	心理療法③ 認知行動療法			
9	心理療法④ 日本発祥の療法・精神分析、マインドフルネス			
10	小児心理 小児期・思春期・青年期			
11	医療領域① 視能障害児 (者) ・病院における小児の心理			
12	医療領域② 家族・高齢者の心理			
13	働く現場 ストレスマネジメント			
14	臨床心理学の活用			
15	まとめと解説			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	50%	臨床心理学の基礎的概念を説明できる点を評価基準とする。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点	50%	課題への取り組み、提出物をもとに評価する。		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載	必要に応じて資料を配布する。			
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
よくわかる臨床心理学 改訂新版	下山晴彦 編	ミネルヴァ書房		
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

## 視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名	授業形態	担当教員名	
臨地実習Ⅱ	実習	山岸 統子・山本 雅美・谷口 誠典・ 荒木 渚	
時間数（単位数）	授業回数	年次	開講時期
45 時間 （ 1 単位）	回	2 年次	後期
授業の目的・概要			
①視覚障害者施設におけるロービジョンケアの役割を理解するとともに、視覚障害者の安全面に配慮した声掛けや適切な誘導を実践する。 ②特別支援学校を見学し、視覚障害教育の状況を観察し、医療と教育の連携の必要性および視能訓練士の役割を理解する。 ③病院実習では、患者様に対する思いやりある態度を習得し、医療倫理に基づく基本的マナーを実践する。 ④3歳児健康診査見学では、母子保健事業における乳幼児の健診の概要を理解するとともに、健診に従事する視能訓練士の役割を理解する。			
授業の到達目標			
1. 視覚障害者とのコミュニケーション及び適切な誘導法を実践することができる。 2. 視覚障がい者に対する医療、福祉、教育の連携を理解する。 3. 患者に対し安全に配慮し、年齢や状況に応じた対応とわかりやすい説明ができる。 4. 母子保健事業における3歳児健康診査の概要と視能訓練士の役割を理解する。			
授業計画			
回	内容		
	視覚障害者施設実習ガイダンス 実習事前評価		
	視覚障害者施設実習		
	視覚障害者施設実習 振り返り		
	病院 眼科実習ガイダンス 実習事前評価		
	病院 眼科実習		
	病院 眼科実習 振り返り		
	3歳児健康診査見学実習 実習事前評価		
	3歳児健康診査見学実習		
	3歳児健康診査見学実習 振り返り		
	特別支援学校見学実習 実習事前評価		
	特別支援学校見学実習		
	特別支援学校見学実習 振り返り		
視覚障害者施設実習	3日×6時間		
病院眼科実習	2日×7時間		
3歳児健康診査見学実習	1日×3時間		
特別支援学校見学実習	1日×7時間		
	合計 42時間（休憩時間を除く）		自己学習 3時間 総合計 45時間
成績の評価方法と基準			
種別	割合	評価基準・その他備考	
筆記試験			
レポート・課題			
小テスト			
平常点			
その他	100%	実習評価項目により評価します。（ガイダンスで説明する）	
自由記載			
教科書			
書名	著者・編集者名	出版社名	
なし			
自由記載			
参考文献			
書名	著者・編集者名	出版社名	
なし			
自由記載			
備考			

## 令和7年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視能学特論Ⅱ		演習	山寄 統子	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
<ul style="list-style-type: none"><li>・1年生で習った基礎知識の定着と検査技術の向上を図る。</li><li>・グループワークやレクリエーションを通してコミュニケーション力を高める。</li><li>・臨地実習や国家試験に向け、自身の課題を整理し、学校生活を見直すきっかけとする。</li></ul>				
授業の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"><li>・知識の定着・技術向上を図り、日々の講義に活かすことができる。</li><li>・他者とコミュニケーションをとり、互いに協力しながら物事を進めることができる。</li><li>・臨地実習や国家試験に向け、自己目標を立て行動することができる。</li></ul>				
授業計画				
回	内容			
1	学校生活オリエンテーション①1年後期の振り返り・2年前期の自己目標を考える			
2	学校生活オリエンテーション②			
3	学校生活オリエンテーション③			
4	学校生活オリエンテーション④			
5	検査実習に向けての練習			
6	1年生への検査実習			
7	臨地実習Ⅰの振り返り 合同実習の振り返り			
8	レクリエーション①			
9	レクリエーション②			
10	車いすの操作、介助と誘導 実習			
11	車いすの操作、介助と誘導 実習の振り返り			
12	科目学習・演習①			
13	科目学習・演習②			
14	1年生との合同実習			
15	2年前期の振り返り			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	50%	提出物により評価します。		
小テスト				
平常点	50%	授業へ取り組む姿勢、態度。		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載	適宜資料を配布する。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				
日程調整等により内容が前後する場合があります。				

# 令和7年度シラバス

## 視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
総合視能訓練学演習Ⅱ		講義・演習	山寄 統子・宮崎 茂雄	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年次に控える臨地実習・国家試験に向け、自身の知識面・技術面の到達度を再確認する。</li> <li>・他学年との合同実習を通して検査技術の向上を図る。</li> <li>・眼疾病の理解を深め、視能訓練士として必要な臨床能力を養う。</li> </ul>				
授業の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・正確な手順で検査を行い、結果を総合的に評価することができる。</li> <li>・知識・技術面において課題を見出し、目標に向け行動することができる。</li> <li>・患者の訴えから鑑別診断、必要な検査を上げることができる。</li> </ul>				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション			
2	実習①検者			
3	実習②被検者			
4	実習の振り返り			
5	科目課題・演習①			
6	科目課題・演習②			
7	視能障害学演習①（宮崎茂雄）			
8	視能障害学演習②（ 〃 ）			
9	視能障害学演習③（ 〃 ）			
10	視能障害学演習④（ 〃 ）			
11	視能障害学演習⑤（ 〃 ）			
12	視能障害学演習⑥（ 〃 ）			
13	視能障害学演習⑦（ 〃 ）			
14	視能障害学演習⑧（ 〃 ）			
15	2年後期の振り返り			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%			
レポート・課題	20%	提出物により評価します。		
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
病気がみえる vol.12 眼科	医療情報科学研究所 編	メディックメディア		
自由記載	適宜資料を配布する。			
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				
日程調整等により内容が前後する場合があります。				

# 令和7年度シラバス

## 視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
総合視能訓練学演習 I		講義	谷口 誠典・山本 雅美・荒木 渚	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	3 年次	前期
授業の目的・概要				
臨地実習Ⅲに向けてこれまで習得した基本的知識を定着させながらも、より臨床に即した思考を学習する。				
授業の到達目標				
1. 臨地実習Ⅲで患者様に実施することが多い眼科検査・訓練を実行することができる。 2. 臨床で遭遇することの多い眼疾患の検査結果が診断や治療評価にどのように役立てられるのかを紐づけることができる。				
授業計画				
回	内容			
1	基礎医学大要 (山本)			
2	基礎医学大要 (山本)			
3	基礎医学大要 (山本)			
4	基礎視能矯正学 (山本)			
5	基礎視能矯正学 (山本)			
6	基礎視能矯正学 (山本)			
7	視能検査学 (荒木)			
8	視能検査学 (荒木)			
9	視能検査学 (荒木)			
10	視能障害学 (谷口)			
11	視能障害学 (谷口)			
12	視能障害学 (谷口)			
13	視能訓練学 (谷口)			
14	視能訓練学 (谷口)			
15	視能訓練学 (谷口)			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
視能訓練士セルフアセスメント 第43～48回視能訓練士国家試験問題集	丸尾敏夫・久保田伸枝 編		文光堂	
視能訓練士国家試験合格ノート 第2版	小林義治・松岡久美子 編		文光堂	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

# 令和7年度シラバス

## 視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
総合視能訓練学演習Ⅱ		講義	宮崎 茂雄・谷口 誠典・山本 雅美 ・荒木 渚	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	3 年次	後期
授業の目的・概要				
視能訓練士に必要な学問的基礎固めをし、また臨床に必要な発展的知識の整理もできているのかを確認します。そのため、これまでに学んできたことについて総まとめの演習を行い、視能訓練士国家資格取得を目指します。				
授業の到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 視能訓練士に必要とされる発展的知識を身につけ臨床に応用することができる。</li> <li>2. 国家試験出題基準に示されている事項を全て理解する。</li> </ol>				
授業計画				
回	内容			
1	視能障害学 国家試験対策講義①（宮崎）			
2	視能障害学 国家試験対策講義②（宮崎）			
3	視能障害学 国家試験対策講義③（宮崎）			
4	視能障害学 国家試験対策講義④（宮崎）			
5	視能障害学 国家試験対策講義⑤（宮崎）			
6	視能障害学 国家試験対策講義⑥（宮崎）			
7	総合模擬試験			
8	総合演習①			
9	総合演習①			
10	総合演習②			
11	総合演習②			
12	総合演習③			
13	総合演習③			
14	総合演習④			
15	総合演習④			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載		第8講～15講の各演習にて評価を行い、平均して60%以上あれば合格とする。		
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				
前期期間に再試験は実施しない。				

# 令和7年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
臨地実習Ⅲ		実習	谷口 誠典・山本 雅美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
540 時間（12 単位）		回	3 年次	前期
授業の目的・概要				
各6週間の実習を3施設で行います。各医療機関の特色や地域での役割りを理解するとともに眼科医師や視能訓練士のもとで眼科一般検査などを実際に患者へ実施し、実践に即した知識と技術を習得することを目的とします。				
授業の到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨地実習施設において実習生として相応しい態度、言葉遣いができる。</li> <li>2. 患者の症状から適切な検査等を選択することができる。</li> <li>3. 基本的な検査等を安全に実施することができる。</li> <li>4. 教科書、文献などを参考に適切な実習記録を作成することができる。</li> </ol>				
授業計画				
回	内容			
1	臨地実習前の自己評価			
2	臨地実習 1 施設目			
3	臨地実習 振り返り			
4	臨地実習 2 施設目			
5	臨地実習 振り返り			
6	臨地実習 3 施設目			
7	臨地実習 振り返り			
8	実習報告会			
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	100%	実習項目により評価します。（詳細はガイダンスで説明する）		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				